TOTO

施工説明書

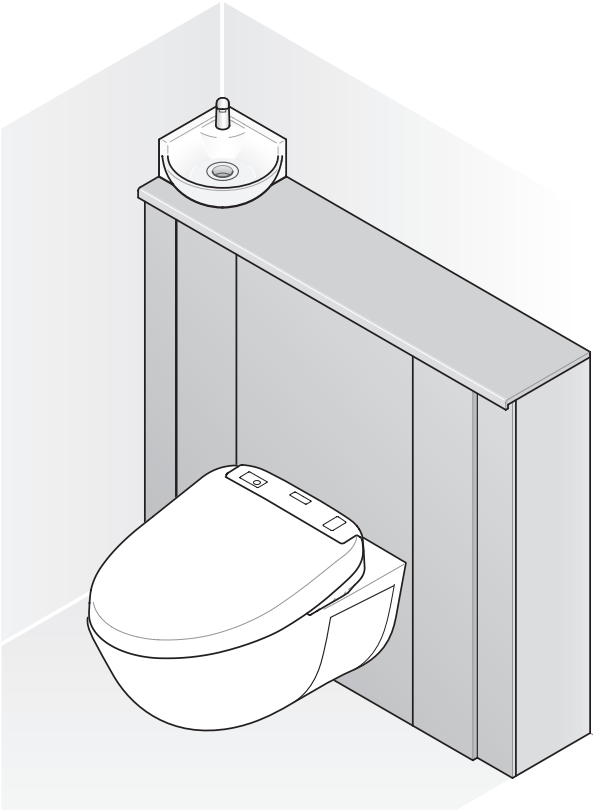
レストパルF

I型　床排水（排水心135mm）・壁排水
手洗器あり／収納タイプ（UWKCB）
手洗器なし／まるごと収納タイプ（UWKDB）

◆“ウォシュレット”はTOTOの登録商標です。

製品の機能が十分発揮できるように、この施工説明書の内容にそって正しく取り付けてください。
本書は手洗器あり左勝手を基準に説明しております。本書に記載の寸法の単位はmmです。

下記商品の取り付けは、各商品に同梱の施工説明書を参照してください。
〈ウォシュレット・タオル掛け（壁付タイプ）・手すり・紙巻器〉



確認 商品タイプの確認　2

情報編　3

1.安全上のご注意　4
2.取り付け前のご注意　6
3.部品の確認　14

手順編　19

工事店様へ

□試運転で必ず実施してください。

便器洗浄をして水たまり面が低下する場合 ➡ P43を参照

排水管に曲がりが多かったり、通気が不十分だったりすると、水たまり面が低下する場合があります。
※低下すると汚物付着の原因になります。
水たまり面が低下した場合は、設定変更にて対応してください。

自治体によって洗浄水量の規制がある場合 ➡ P43を参照

□取扱説明書の最終ページの保証書に、必要事項を記入のうえ、必ずお客様にお渡ししてください。
お渡しできない場合は、目立つ場所に置いてください。
□取り付け後、ウォシュレットの機能、使いかたなどについてお客様にご説明をお願いいたします。
□新築などでお客様に引渡すまでに時間があるときは、電源プラグを抜いておいてください。

商品タイプの確認

商品タイプにより施工手順が異なります。

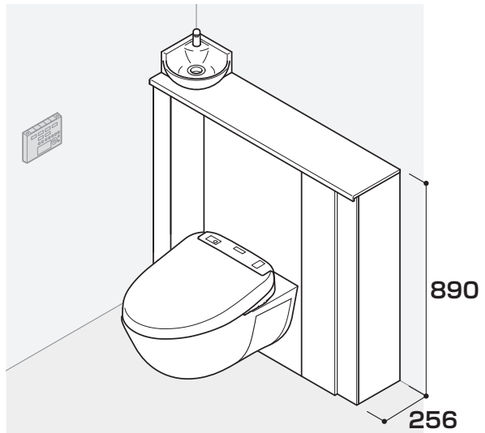
お施主様のお宅は、どのタイプですか？

手洗器タイプ

手洗器あり

収納タイプ

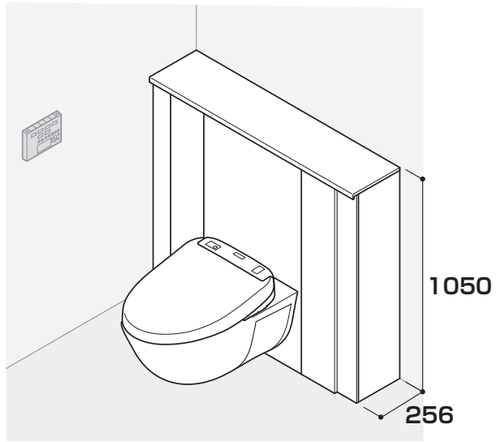
品番:UWKCB～



手洗器なし

まるごと収納タイプ

品番:UWKDB～

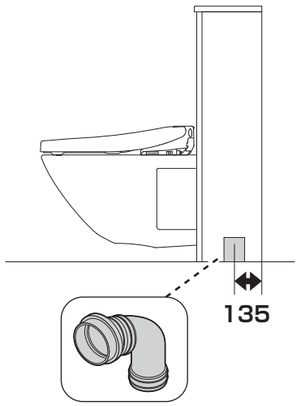


床排水タイプ

排水心135mm

給水新設

既存給水流用(リモデル用)

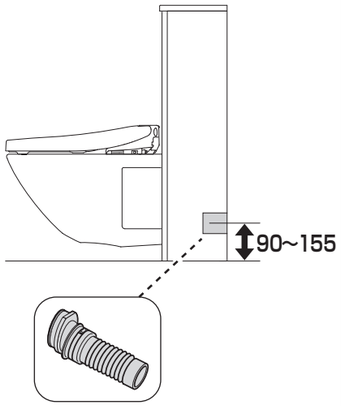


壁排水タイプ

後ろ抜き

給水新設

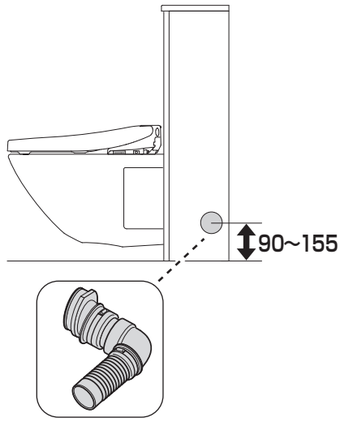
既存給水流用(リモデル用)



左右抜き

給水新設

既存給水流用(リモデル用)



情報編

1. 安全上のご注意 ▶4

2. 取り付け前のご注意 ▶6

1 設置寸法 6
2 キャビネット扉の開閉範囲 6
3 排水位置 7
4 給水位置 8
5 寒冷地・水抜方式の場合の水抜栓位置(床排水タイプのみ) 9
6 補強材位置 10
7 電気配線 11
8 幅木 12
9 窓枠など 12
10 必要工具 13
11 壁裏補強材なしの場合のオプション品 13

3. 部品の確認 ▶14

1.安全上のご注意

安全のために必ずお守りください。

お取り付け前にこの「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく取り付けてください。
ここに示した注意事項は、安全に関する重要な内容となりますので、必ずお守りください。

●表示と意味はつぎのようになっています。

⚠警告	誤った取り扱いをすると、「死亡又は重傷を負う可能性が想定される」内容です。
⚠注意	誤った取り扱いをすると、「人が傷害を負う可能性および物的損害※の発生が想定される」内容です。

●お守りいただく内容を絵表示で区分し、説明しています。

⃠	してはいけない「禁止」の内容です。
❗	必ず実行していただく「強制」の内容です。

※物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を示します。

⚠警告

禁止

修理技術者以外の人は絶対に分解したり、修理・改造は行わない
火災や感電の原因となります。

ぬれた手で、電源プラグを抜き差ししない
感電の原因となります。

アース（D種接地）工事がされていることを確認する
アース工事がされていないと故障や漏電のとき、感電する原因となります。
アース工事は、お近くの工事店に依頼してください。

浴室など水がかかったり湿気の多い場所には設置しない
火災や感電の原因となります。
商品本体・ねじ類の腐食により、落下してけがやときに死亡の原因となります。

水道水および飲用可能な井戸水・地下水以外は使用しない
皮膚の炎症などを起こす原因となります。

電源プラグやコードが傷んだりコンセントの差し込みがゆるいままで使用しない
火災や感電の原因となります。

指定する電源（交流100V）以外では使用しない
火災の原因となります。

ガタついているコンセントは使わない
火災や感電の原因となります。

電源コード・電源プラグが破損するようなことをしない
傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重いものを載せたり、束ねたり、挟み込んだり、加熱したりしない
傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。

給水および排水管の真下部にコンセントを設置しない
結露水などにより、コンセントに水がかかり、火災や感電の原因となります。

屋外および傾斜のあるような壁面、振動の激しい場所に取り付けない
取り付けが不安定になり、倒れたり落下してけがやときに死亡の原因となります。

器具取付用のねじ固定部の壁裏には、配管・配線を通さない
火災や感電の原因となります。
水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

雷が発生しているときは、電源プラグに触れない
感電の原因となります。

コンセントや配線器具の定格を超える使いかたをしない
たこ足配線などで定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

ウォシュレットの給水ホースをコンセントに接触させない
結露水などにより、コンセントに水がかかり、火災や感電の原因となります。

必ず守る

電源プラグは根元まで確実に差し込む
火災や感電の原因となります。

壁固定ねじ取付位置には、必ず壁裏を補強する
商品の転倒、落下によりけがやときに死亡の原因となります。

コンセント位置・電源コードの取り回しは、本説明書に記載された位置・方法・注意事項を厳守する
結露水などにより、コンセントに水がかかり、火災や感電の原因となります。

電源プラグを抜くときは、必ずプラグ本体を持って引き抜く
コードを引っ張るとプラグやコードが傷んで、火災や感電の原因となります。

取り付け面がタイル・コンクリート壁の場合は、コンクリート用プラグ（現場手配）を使用する
取り付けが不安定になり、落下によりけがやときに死亡の原因となります。

工事完了後、商品の傾きやがたつきがないか確認する
商品が落下したり、外れたりしてけがやときに死亡の原因となります。

⚠警告

必ず守る

商品を取り付ける柱・間柱は、腐食などで強度不足でないことを確認する
取付物の転倒・落下によりけがやときに死亡の原因となります。

コンセントは水や小水がかからない位置に設置する
コンセントに水がかかり、感電・発火の原因となります。

機器の設置は専門業者が行う
また、電気工事は関連する法令・法規に従って有資格者（電気工事士）が行う
火災や感電の原因となります。水漏れして、家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。
商品の破損や落下によりけがをするおそれがあります。

⚠注意

禁止

止水栓を開けたままで給水フィルターをはずさない
水が噴き出し、家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

給水ホースが破損するようなことをしない
傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重いものを載せたり、束ねたり、挟み込んだり、加熱したりしない
給水ホースが破損し、水漏れして家財などを濡らす財産損害発生の原因となります。

商品に強い力や衝撃を与えない
商品の破損や落下によりけがをするおそれがあります。
水漏れして、家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

カウンターの上に乗って作業しない
カウンターが破損したり落下したりして、けがの原因となります。

必ず守る

給水フィルター・給水フィルター付水抜栓を取り付けるときは接続部やフィルターふたを確実に締める
水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

※止水栓は必ず製品同梱の専用止水栓（フィルター付き）を取り付けてください。

設置工事に使用する部材は必ず付属部品および指定部品を使用する
取り付けが不安定になり、使用中に落下してけがの原因となります。水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

工事完了後、給排水管から水漏れがないか確認する
水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

給水・排水接続に関する作業は、本説明書に記載された方法・注意事項を遵守する
水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

カットした面は滑らかに仕上げる
滑らかに仕上げないとお客様の手が触れ、けがをする原因となります。

給水ホースと分岐金具を正しく接続する
水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

商品の取り付け・加工は、本説明書に記載された方法・注意事項を厳守する
商品が破損・落下し、けがのおそれがあります。

ねじ部の固定については、本説明書に記載された方法・注意事項を遵守する
商品が破損し、けがをする原因となります。

商品の壁への固定が完了するまで、もたれたりものを載せたりしないよう十分注意する
商品が倒れたり落下してけがの原因となります。

水準器を用いて水平に設置する
収納物が落下してけがの原因となります。

推奨位置以外に設置する場合は、安全性を十分に確認する
取り付けが不安定になり、使用中に落下してけがの原因となります。

手洗器等、器具周囲のすきま処理は、本説明書に記載された方法・注意事項を厳守する
水が浸入し、家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

凍結のおそれがある地域では、凍結防止工事を行う
凍結すると器具の一部が破損し、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

便器の水たまり部を見て、封水が切れていないことを確認する
封水が切れている場合に下水ガスや塩素ガス、硫化水素などによって設備・機器が腐食し、物的損害・傷害の生じるおそれがあります。

マーク表示について

	寒冷地仕様の場合を示します。		シールテープを巻いてください。	けがき	けがきをしてください。
手締めで	電動ドライバー使用禁止です。手締めしてください。	カット	カットしてください。	水平確認 垂直確認	水準器で水平・垂直確認してください。
下穴 φ3	下穴をあけてください。（例:φ3の場合）	ボードアンカー	ボードアンカーを差し込んでください。		

2.取り付け前のご注意

取り付け前の確認

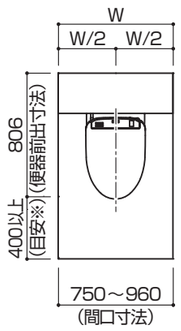
1. **取り付けに必要なトイレスペースを確保する**
   ▶P.6「設置寸法」参照
   ※手洗器キャビネットを設置の際は、ドア枠などの干渉により扉が開かなくなる場合があります。
2. **給水取出位置・排水管位置およびコンセント位置が所定の位置であることを確認する**
   ※ウォシュレット用電源コードの長さは約1mです。
   コンセントはこの長さに適した所定の位置に設置しているか確認してください。
3. **給水圧力**
   最低必要水圧：0.05MPa(流動時)
   最 高 水 圧：0.75MPa(静止時)
   この圧力範囲で使用してください。
4. **手洗器の給水金具の取り付けに際しては、専用工具(TZ15LまたはTZY15N)が必要**
5. **キャビネットの表面に指定のクッション材・ラベル以外は張らない**

参照 「水漏れ確認」は、本説明書を参照してください。
「ウォシュレットへの通電」はウォシュレット施工説明書を参照してください。

1 設置寸法

トイレの広さは以下の寸法を確保してください。間口750mm未満には対応できません。

間口750～960mm

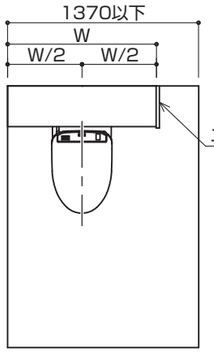


※ やむなく狭いスペースに設置せざるを得ない場合や、トイレ内に障がい物がある場合は、器具の取付上、機能上最低限必要な寸法を確保ください。
ただし、使用される方によっては、狭く使用しづらく感じられる場合があります。
また、便器先端から約300mm以内に障がい物がある場合は、便座・便ふたが閉まらないことや、便器のオート洗浄ができなくなる場合があります。

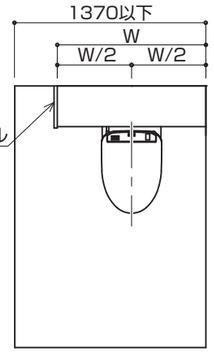
エンドパネルを使用する場合

・エンドパネルを利用して、壁とすき間をあけて設置することもできます。間口は1370mm以下としてください。

【Lタイプの場合】



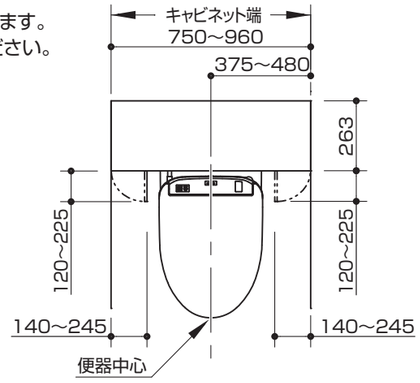
【Rタイプの場合】



エンドパネル

2 キャビネット扉の開閉範囲

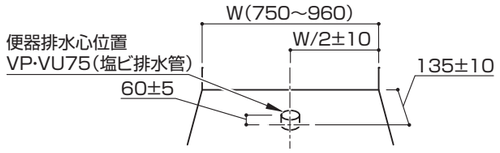
・大便器キャビネットの扉は、右図の範囲で開閉します。
・開閉範囲内に障がい物がないことを確認してください。



3 排水位置

床排水タイプ（排水心135）

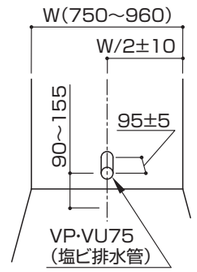
・下図の位置に便器の排水心があることを確認してください。
・VP·VU75(塩ビ排水管)は床から60±5mmで立ち上げてください。
・VP·VU100(塩ビ排水管)には接続できません。



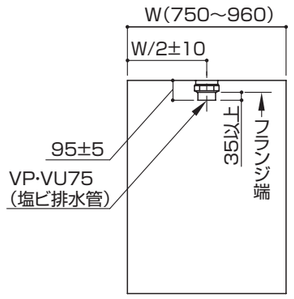
壁排水タイプ

・下図の位置に便器の排水管位置があることを確認してください。
・排水勾配は必ず1/50以上確保してください。
・便器と排水管はジャバラ管(材質:軟質塩ビ)での接続となります。
・VP·VU100(塩ビ排水管)には接続できません。

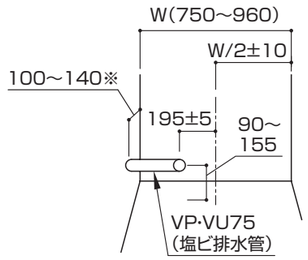
後ろ抜きの場合



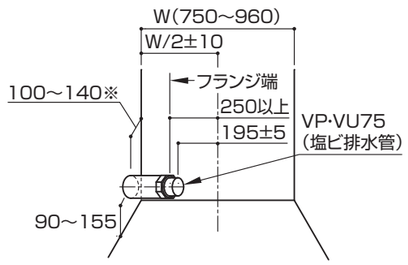
【フランジ付きの場合】
排水位置高さは90～155です。



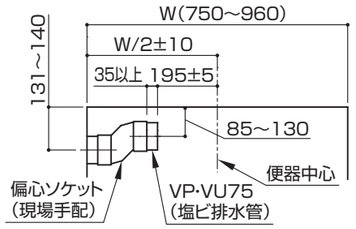
左抜きの場合



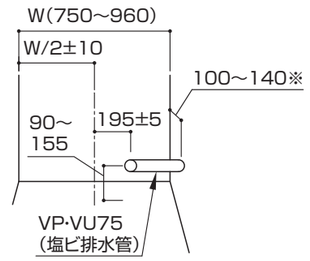
【フランジ付きの場合】



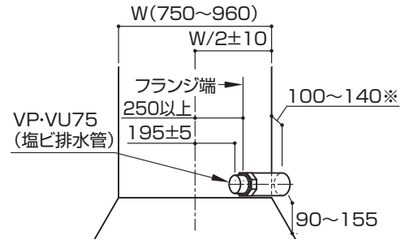
※排水位置が後ろ壁から131～140の場合は、別途偏心ソケットを手配し右図の位置に立ち上げてください。
偏心ソケットは逆勾配にならないように取り付けてください。



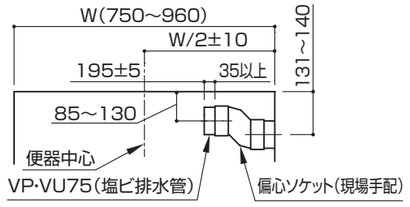
右抜きの場合



【フランジ付きの場合】



※排水位置が後ろ壁から131～140の場合は、別途偏心ソケットを手配し右図の位置に立ち上げてください。
偏心ソケットは逆勾配にならないように取り付けてください。



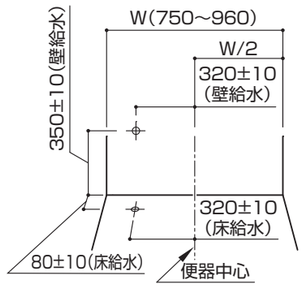
4 給水位置

・下図の位置に仕上面と同一面に給水管(Rc1/2)を取り出してください。手洗器が左右勝手とも、給水対応位置は共通です。

給水新設の場合

【床排水タイプで寒冷地(水抜方式)の場合】
床給水のみとなります。

【壁排水タイプで左右抜きの場合】
壁給水のみとなります。

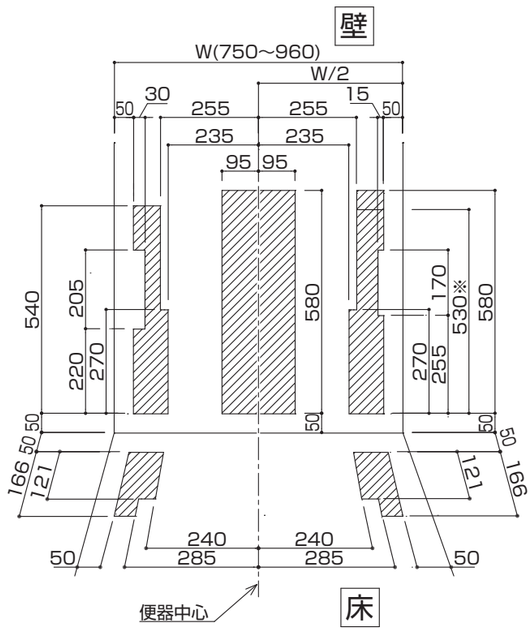


既存給水流用の場合

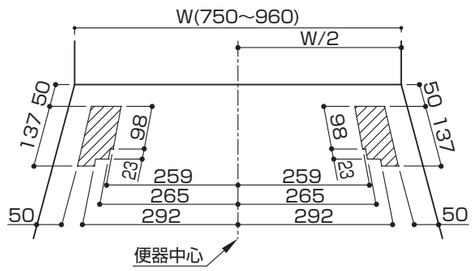
・下図の領域内が対応範囲となります。対応範囲内に給水管（Rc1/2）の中心があることを確認してください。
仕上げ面と同一面に給水管を取り出してください。

床排水タイプ

【一般地･流動方式の場合】
・給水位置が便器中心より右側の場合は、
延長ホース(UGTN98L2X50R)を別途手配してください。
※印より上に給水位置がある場合は、棚板が取り付けられません。



【水抜方式の場合】
・給水位置が便器中心より右側の場合は、
延長ホース(TN98L2X30)およびエルボ(D13084W)を
別途手配してください。
・寒冷地(水抜方式)の場合は、床給水のみとなります。

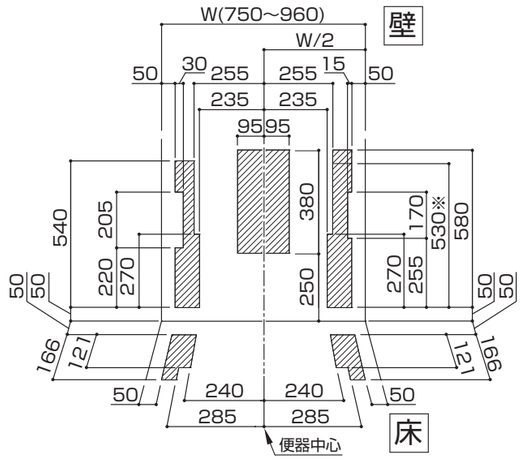


既存給水流用の場合（つづき）

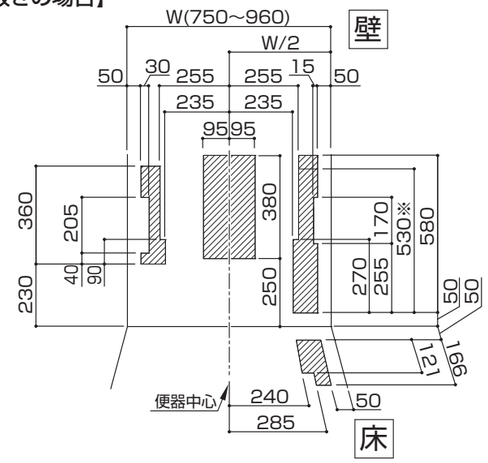
壁排水タイプ

・給水位置が便器中心より右側の場合は延長ホース（UGTN98L2X50R）を別途手配してください。
※印より上に給水位置がある場合は、棚板が取り付けられません。

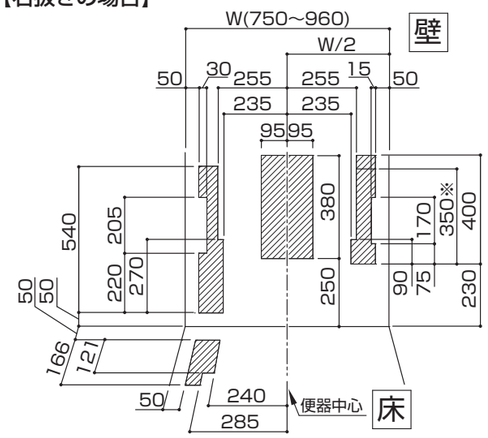
【後ろ抜きの場合】



【左抜きの場合】



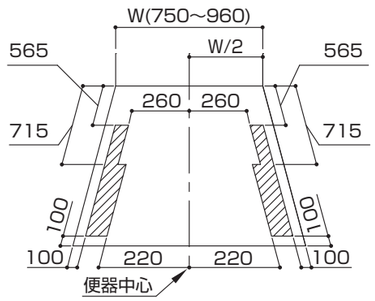
【右抜きの場合】



5 寒冷地・水抜方式の場合の水抜栓位置(床排水タイプのみ)

・水抜栓立ち上げ可能な範囲は右図のとおりです。

事前確認
□紙巻器の設置位置を確認
※水抜栓高さが、450mmを超える場合は、
紙巻器に干渉するおそれがあります
□棚付二連紙巻器を設置する場合は、
棚板や扉などと干渉しないかを確認



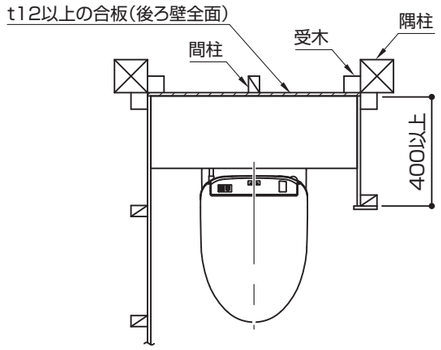
6 補強材位置(必ず入れる)

ねじ位置については下記URL内の「ねじ位置情報」をご覧ください。
【URL】
http://search.toto.jp/contents/navi/construction/wl/default.htm

大便器キャビネット部

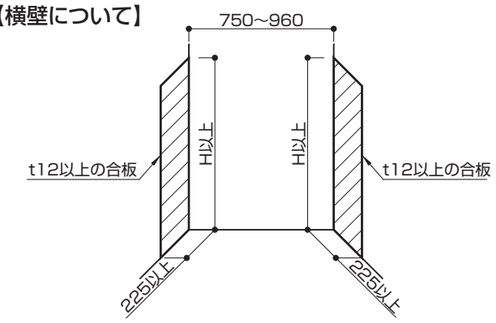
・施工にあたっては、下記以上の強度の補強を必ず施してください。
・補強合板は間柱および受木に確実に固定してください。
・木材や建築部材が腐食などで強度不足でないことをご確認ください。

間口750～960mm



・後ろ壁と横壁が、受木／隅柱などを介し、連結されていることを確認してください。
・後ろ壁全面(床から天井まで)の壁裏に、t12以上の合板(JAS規格相当品)を必ず入れてください。
・横壁に扉がつく場合でも、後ろ壁から400mmは壁を設置してください。
※ 軽量鉄骨(LGS)の場合も同様です。

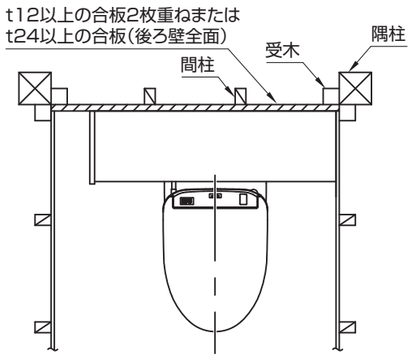
【横壁について】



タイプ	H
手洗器あり(収納タイプ)	900
手洗器なし(まるごと収納タイプ)	1050

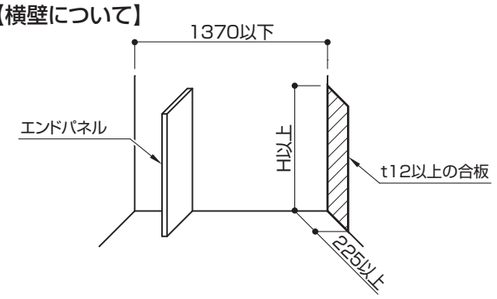
・上図の斜線範囲(壁裏)にt12以上の合板(JAS規格相当品)を入れてください。
・壁裏補強なしで施工をする場合は、ボードアンカー(オプション:UGA490Bまたは引抜強度200N以上のもの)を使用してください。
・紙巻器などを設置する場合は、横壁に別途補強が必要です。

エンドパネルを使用する場合 (間口1370mm以下)



・エンドパネルを使用する場合、間口は1370mm以下としてください。
・後ろ壁全面(床から天井まで)の壁裏に、t12以上の合板(JAS規格相当品)を2枚重ね、または、t24以上の合板(JAS規格相当品)を必ず入れてください。

【横壁について】



タイプ	H
手洗器あり(収納タイプ)	900
手洗器なし(まるごと収納タイプ)	1050

・エンドパネルと反対側の横壁(上図の斜線範囲の壁裏)に、t12以上の合板(JAS規格相当品)を入れてください。
・壁裏補強なしで施工をする場合は、ボードアンカー(オプション:UGA490Bまたは引抜強度200N以上のもの)を使用してください。
・紙巻器などを設置する場合は、横壁に別途補強が必要です。

※上図はRタイプのエンドパネルです。Lタイプの場合は逆勝手となります。

エンドパネルの使用の有無にかかわらず、間柱及び受木は、奥行き45mm×幅36mm以上のものを、ピッチ455mm以下で入れてください。
根太は高さ45mm×幅36mm以上のものを、ピッチ303mm以下で入れてください。また、束などによる支持を、ピッチ910mm以下で入れてください。

7 電気配線

定格消費電力は下表を参照してください。(AC100V 50/60Hz共通です。)

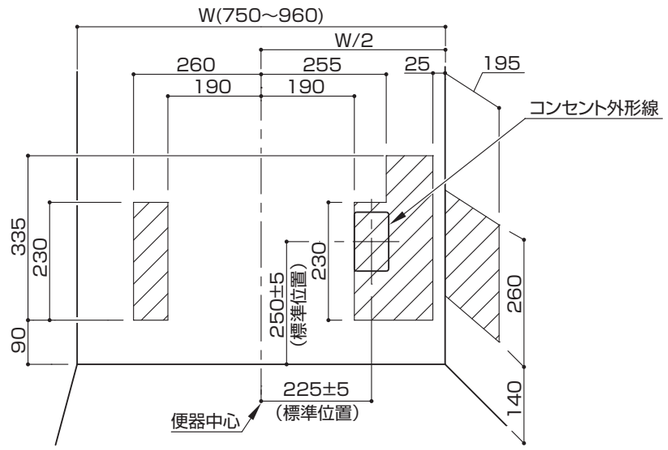
定格消費電力	ウォシュレット		ヒーター付タンク(水抜方式)
	1280W (F1A,F2A,F3A)	1282W (F3AW)	2W

・コンセントは付属品として同梱されておりません。下表をご確認のうえ、必要となるコンセントを現場にて手配してください。

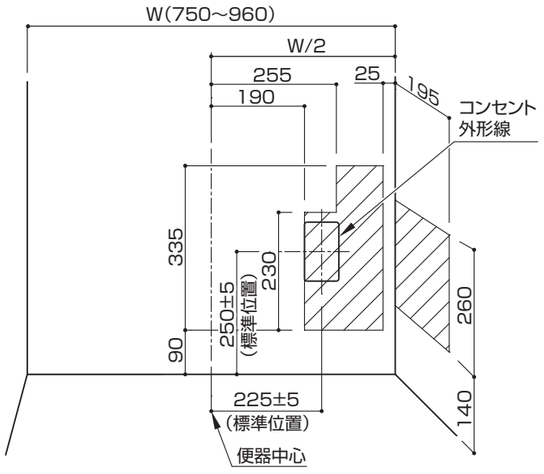
ウォシュレット	ヒーター付タンク(水抜方式)	必要なコンセント
○		接地用端子の付いた接地極付きの壁埋込式コンセント (1カ所)
○	○	接地用端子の付いた接地極付きの壁埋込式2口コンセント (1カ所)

・既存のコンセントを使用する場合は、下図の斜線範囲内にコンセントの外形が納まることを確認してください。
・新規に設置する場合は、下図の「標準位置」に設置してください。
・横壁にコンセントがある場合は、コンセントプレートのサイズに側板を開口してください。
・向かって右側にエンドパネルを使用する場合は、横壁のコンセントは使用できません。

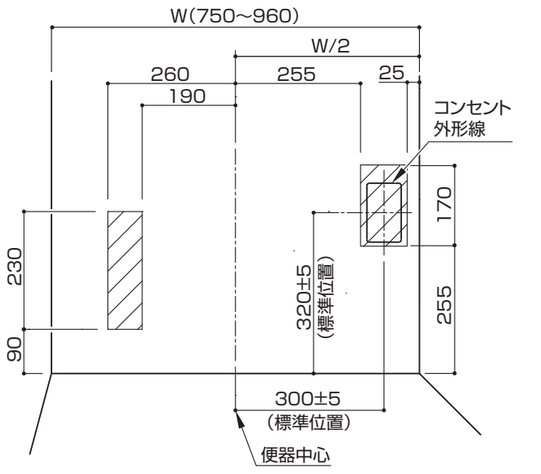
床排水・壁排水後ろ抜きの場合



左抜きの場合

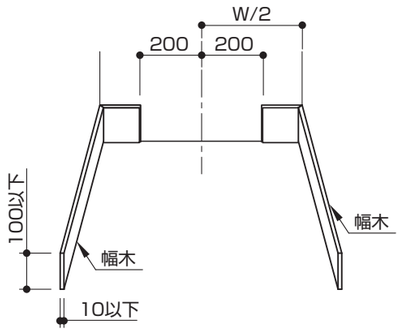


右抜きの場合



8 幅木

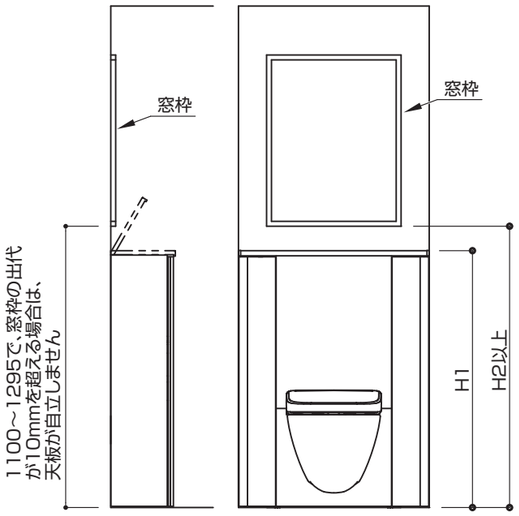
・幅木は下図のようにカットしておいてください。
　後ろ壁中央部に幅木があると、本商品が設置できません。
・幅木の大きさは、高さ100mm以下、厚さ10mm以下としてください。



9 窓枠など

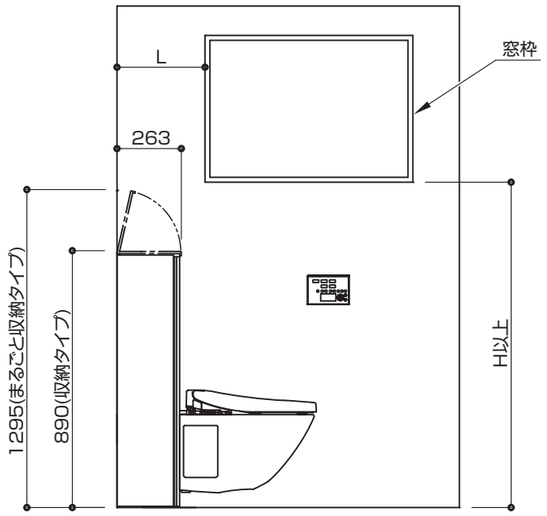
・周辺部材（鏡・手すりなど）を取り付ける場合は、周辺部材の説明書を参照してください。
・壁に窓枠や腰壁の見切りなどの突起物などがある場合、下図のような制約が付きます。事前に製品と干渉しないよう窓枠や腰壁の見切りなどの位置を設定してください。

大便器後ろ壁に窓がある場合



タイプ	H1	H2
手洗器あり（収納タイプ）※1	890	1020
手洗器なし（まるごと収納タイプ）	1050	1100

大便器横壁に窓がある場合



タイプ	L=300以上	L=300未満
	H	
手洗器あり（収納タイプ）※1	―	1020
手洗器なし（まるごと収納タイプ）	―	1330

図はまるごと収納タイプの天板の開き方を示しています。
※1 手洗器あり（収納タイプ）の場合、天板は開きません。

10 必要工具

※一般水道工事に使う工具以外に、下記の工具を用意してください。

電動ドライバー
・#2ビット（65mm・200mm）
・#3ビット（200mm）

電動ドリル
φ3、φ4、φ4.5、
φ5、φ9

シリコーン系
シール剤

TZ工具
（品番:TZY15N
またはTZ15L）
（手洗器ありの場合）

開閉工具
（給水フィルター
清掃用）

のこぎり

小型のこぎり
（コンセント開口用）

水準器

ドライバー
#2ビット
（65mm・200mm）

スタビードライバー
#2ビット

ドライバー
（給水フィルター清掃用）

11 壁裏補強材なしの場合のオプション品

ボードアンカー
（品番:UGA490B 50個入）

MEMO

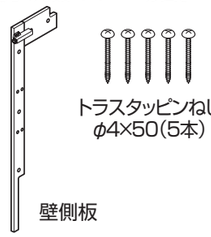
3.部品の確認

・専用の施工説明書が同梱されている商品は、外装箱のみ表記しています。

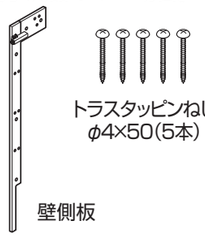
コアキャビネットセット

壁側板セット（左）

【手洗器ありの場合】

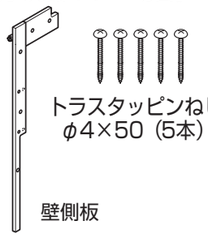


【手洗器なしの場合】

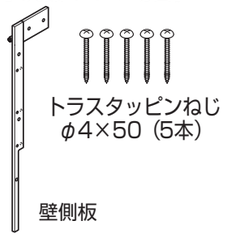


壁側板セット（右）

【手洗器ありの場合】

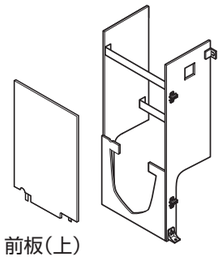


【手洗器なしの場合】

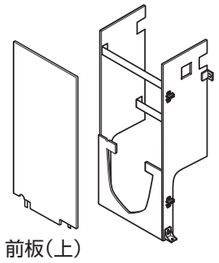


コアキャビネット

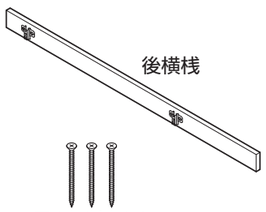
【手洗器ありの場合】



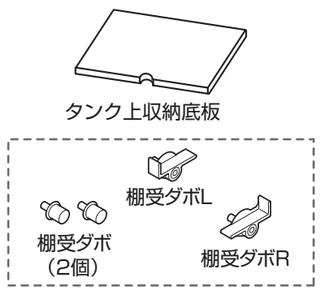
【手洗器なしの場合】



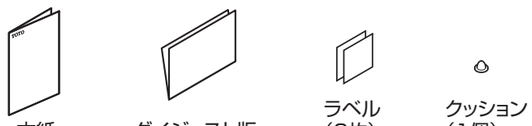
後横桟セット（手洗器なしの場合）



タンク上収納底板セット（手洗器なしの場合）



施工説明書



取扱説明書

大便器キャビネット部材

止水栓

※止水栓は必ず製品同梱の専用止水栓（フィルター付き）を取り付けてください。

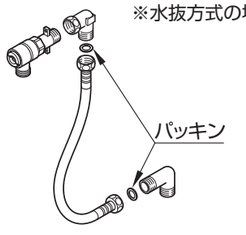
【給水新設用】

壁給水

床給水

【既存給水流用】

※水抜方式の場合は【床給水】を使用します。

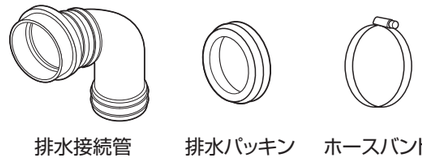


ホースクランプセット

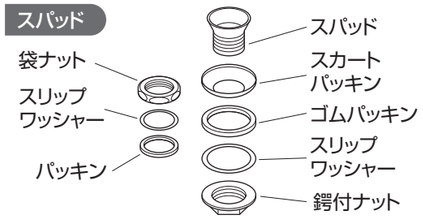
【水抜方式の場合のみ使用】

大便器キャビネット部材（つづき）

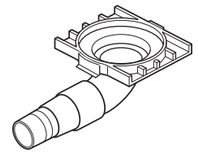
大便器排水接続管



スパッド



タンク接続管

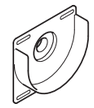


排水接続管セット

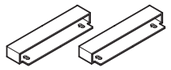
【後ろ抜きの場合】

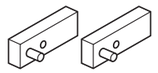
【左右抜きの場合】

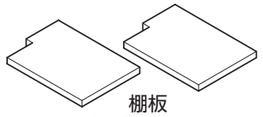
コアキャビネット付属部材セット



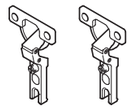
棚板セット

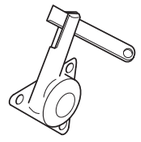






天板開閉部材セット



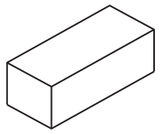


その他部材の詰め合せ

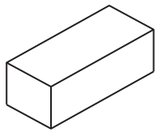
商品選択されている場合に入っているもの

紙巻器

【メタル製】

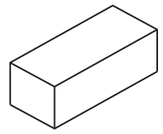


【樹脂製】

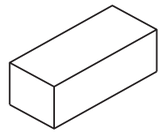


タオル掛け

【手洗器ありの場合】

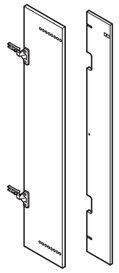


ハンドグリップ



その他包装

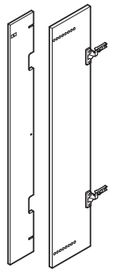
扉セット(左)


扉

トラスタッピンねじ
φ4×18(3本)または
φ4×20(3本)

※1本は「手順編 18.仕上げ」で使用します。
※扉表面色により、いずれかのねじが入っています。

扉セット(右)

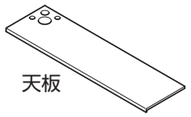

扉

トラスタッピンねじ
φ4×18(3本)または
φ4×20(3本)

※1本は「手順編 18.仕上げ」で使用します。
※扉表面色により、いずれかのねじが入っています。

天板セット

【手洗器ありの場合】

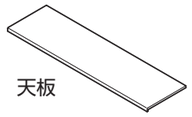

天板

面ファスナー(3個)

天板キャップ

トラスタッピンねじ
φ4×8(2本)

【手洗器なしの場合】

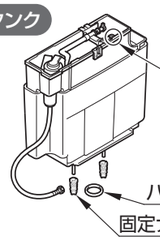

天板

天板キャップL

天板キャップR

トラスタッピンねじ
φ4×8(4本)

セットタンク



ピン ※ピンはジョイント端に付いています。

カバー(A)

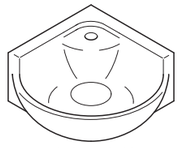
カバー(B)

【流動方式の場合】

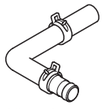
流動レバー

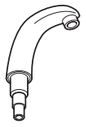
レバー止め

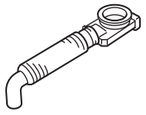
手洗器セット(手洗器ありの場合)


手洗器本体

スパウト固定用ナット


給水ホース


スパウト


排水エルボ

ケーブルクリップ

パッキン(スパウト用)

クイックファスナー
(1個)

L型金具

※この部材は使用しません

手洗器固定金具

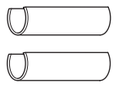
取付ボルト
M6×45(2本)

手洗器固定金具
(2個)

取付ナット
(2個)

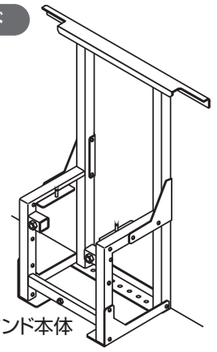
ワッシャー
(1個)

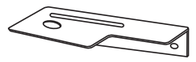
トラスタッピンねじ
φ4×12(2本)
※この部材は使用しません

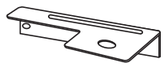

排水管カバーセット(2個)

その他包装(つづき)

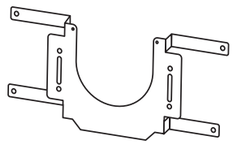
スタンド

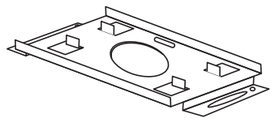

スタンド本体


間口調整材 R


間口調整材 L

皿タッピンねじ
φ4×8(4本)


幕板


タンク固定板

大便器固定ボルト
M16×180(2本)

化粧座金
(外形:φ42mm)
M16(4枚)

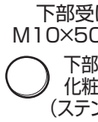
平ゴムパッキン
(外形:φ41mm)
(2枚)

六角ナット
M16(4個)

平座金
(2枚)

異形ゴムパッキン
(2個)

下部受け材
M10×50(1本)


下部受け材
化粧カバー
(ステンレス製)

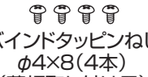
便器取り付けボルト
M10×60(2本)

平座金
(外形:φ30mm)
M10(2枚)

平ゴムパッキン
(外形:φ41mm)
(2枚)

なべタッピンねじ
φ6×50(16本)
(スタンド・壁・床固定用)

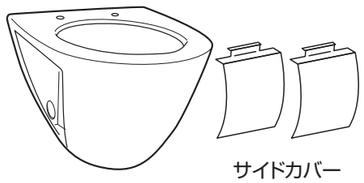
高さ調整ねじ
M6×18(4本)


バインドタッピンねじ
φ4×8(4本)
(幕板取り付け用)

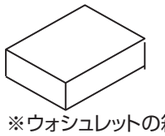
平座金
(外形:φ18mm)
M6(2枚)

蝶ナット
M6(2個)

大便器


サイドカバー
(2枚)

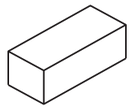
ウォシュレット



分岐金具

※ウォシュレットの箱の中に入っています
「手順編 4.止水栓」で使用します。

便器洗浄ユニット



<下記部品は使用しません>

ワッシャーA

ワッシャーB

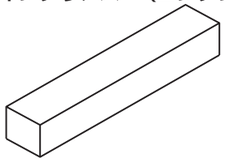
コードフック
(7個)

サンドペーパー

商品選択されている場合に入っているもの

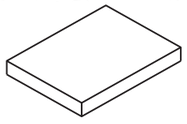
手すり

【天然木手すり、インテリアバー(コンテンポラリタイプ)】



化粧鏡

【アルミフレームタイプ、木製フレームタイプ】

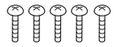


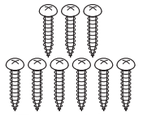
エンドパネル

エンドパネル本体

アングル材
(3個)

トラスタッピンねじ
φ4×12(8本)


トラス小ねじ
M4×18(5本)


トラスタッピンねじ
φ4×30(9本)

MEMO

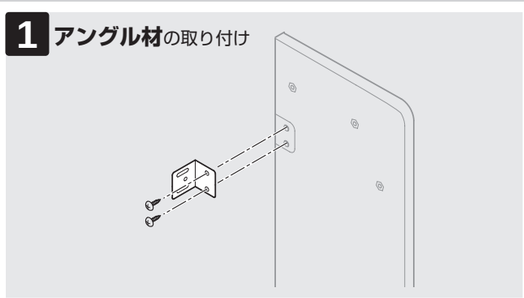
手順編

0.エンドパネル（オプション）		▶20
1.後横桟		▶21
2.スタンド		▶22
3.壁側板		▶24
4.止水栓		▶25
5.排水接続管		▶28
6.コアキャビネット		▶29
7.大便器		▶30
8.タンク接続管		▶32
9.セットタンク		▶34
10.ウォシュレット		▶36
11.前板（上）		▶38
12.棚板・扉		▶39
13.試運転・確認		▶41
14.流動レバー		▶45
15.給水フィルターの清掃		▶45
	手洗器 あり	手洗器 なし
16.天板	▶46	▶49
17.リモコン		▶51
18.仕上げ		▶51
引渡し前の点検		▶裏表紙

0.エンドパネル（オプション）

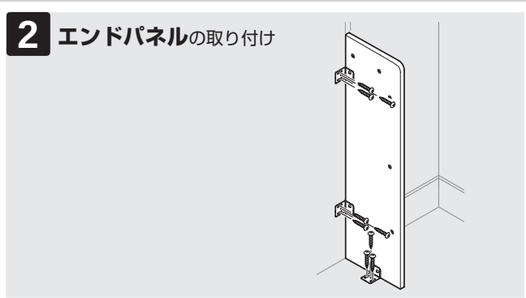
【エンドパネルがない場合】
P.21「1.後横桟」から作業してください。

1 アングル材の取り付け



▶P.20

2 エンドパネルの取り付け



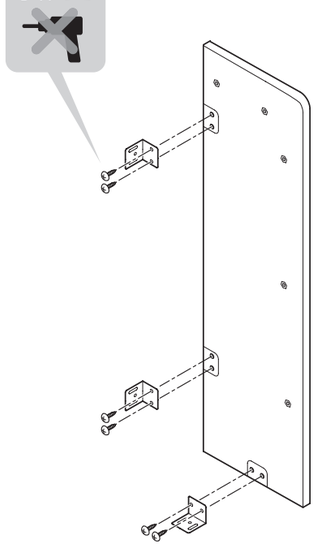
▶P.20

1 アングル材の取り付け

❶

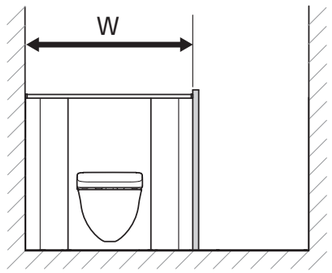
トラスタッピンねじ
φ4×12（6本）

手締めで



2 エンドパネルの取り付け

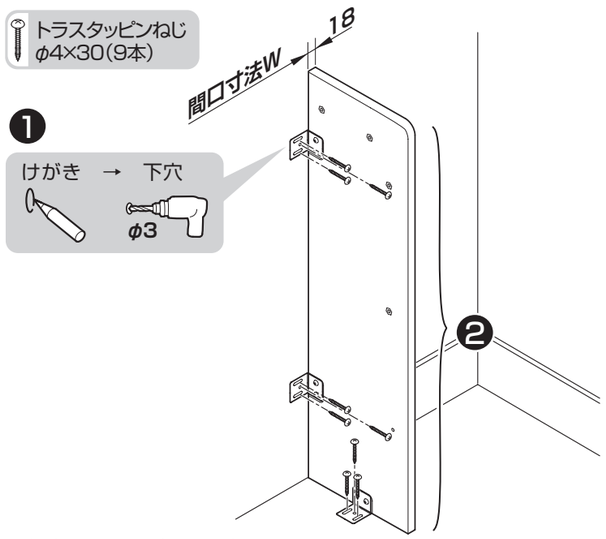
間口寸法Wの測定範囲



トラスタッピンねじ
φ4×30（9本）

❶

けがき → 下穿
φ3



※幅木は、エンドパネルで止めてください。

⚠ 注意

必ず守る

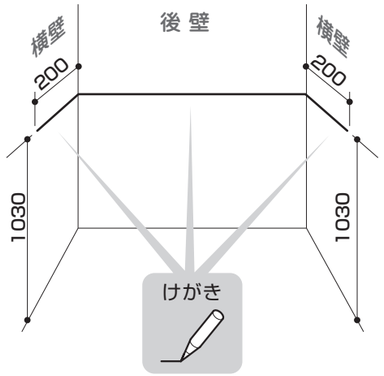
商品を設置する側の後壁には幅木を付けないでください。
スタンドが設置できなくなります。

1.後横桟

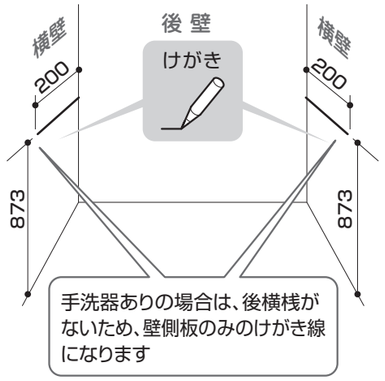
1 後横桟の取り付け

❶

手洗器なしの場合



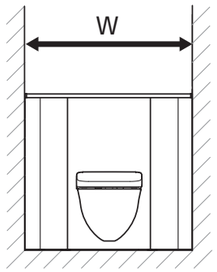
手洗器ありの場合



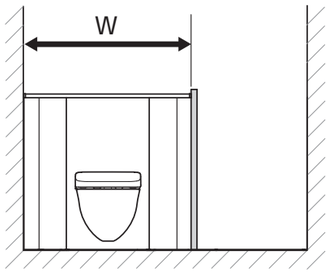
手洗器なしの場合のみ

間口寸法Wの測定範囲

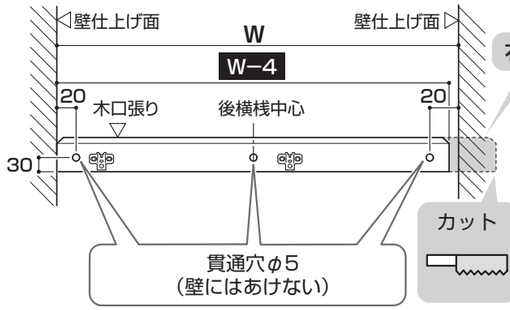
【エンドパネルなしの場合】



【エンドパネルありの場合】

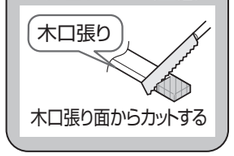


❷ 後横桟カット・穴あけ

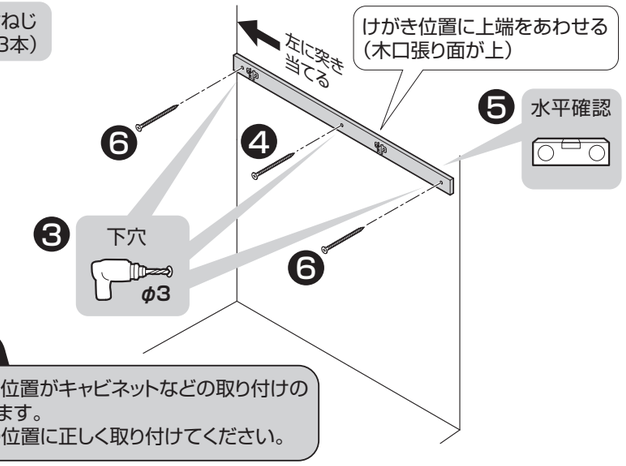


ポイント

チッピングに注意!



皿タッピンねじ
φ4×50（3本）

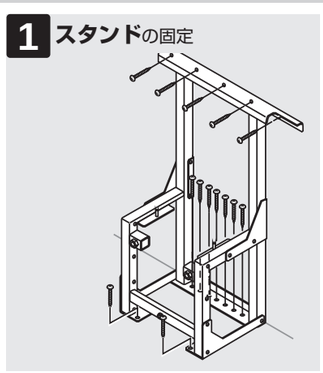


注 意

後横さんの位置がキャビネットなどの取り付けの基準となります。
必ず所定の位置に正しく取り付けてください。

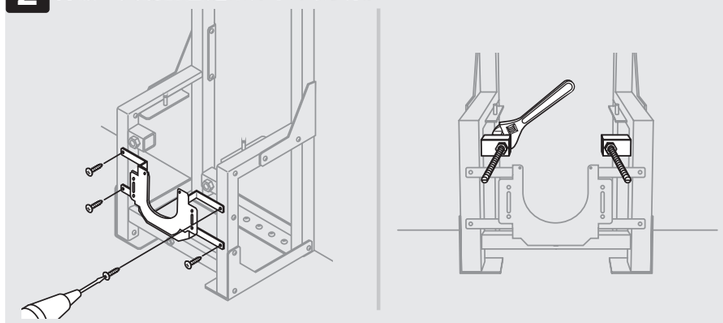
2.スタンド

1 スタンドの固定



▶P.22

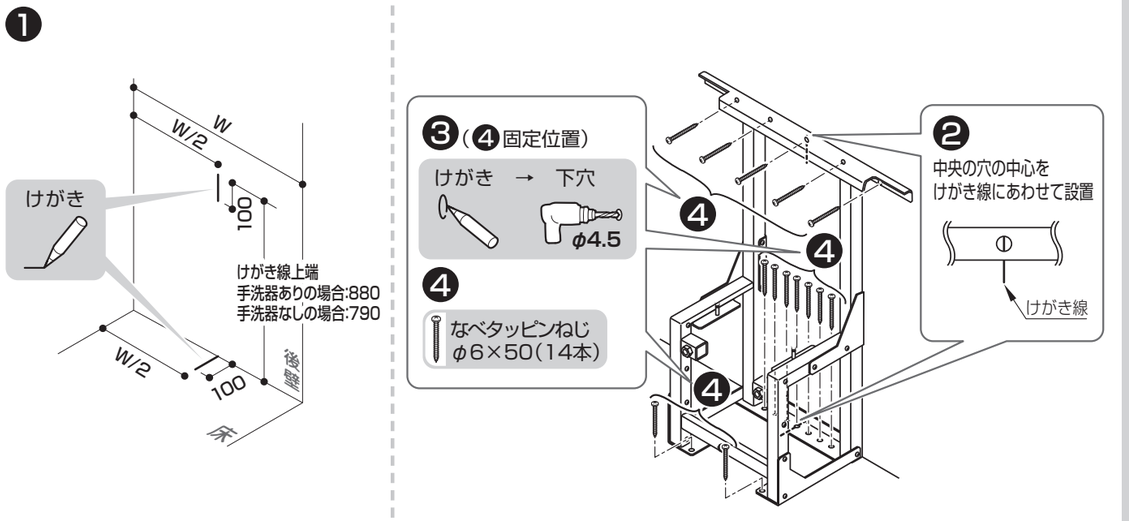
2 幕板・大便器固定ボルトの取り付け

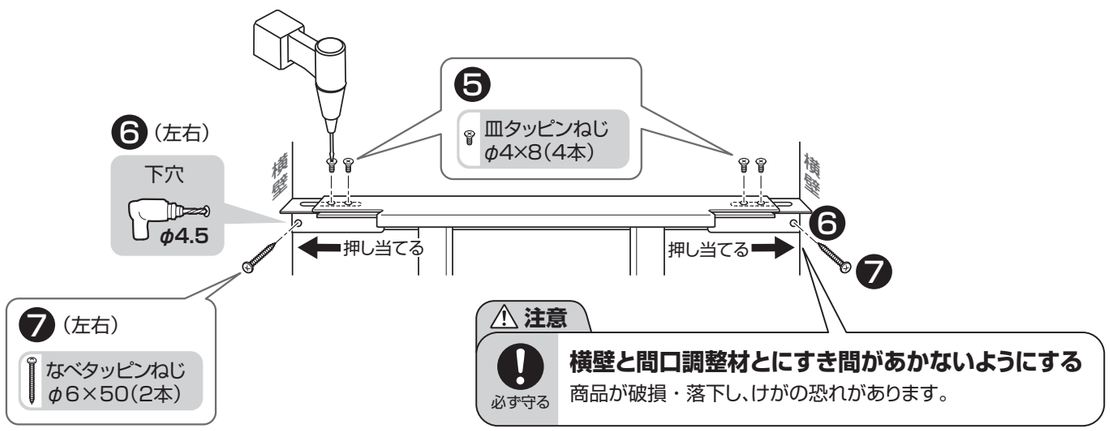


▶P.23

1 スタンドの固定

❶





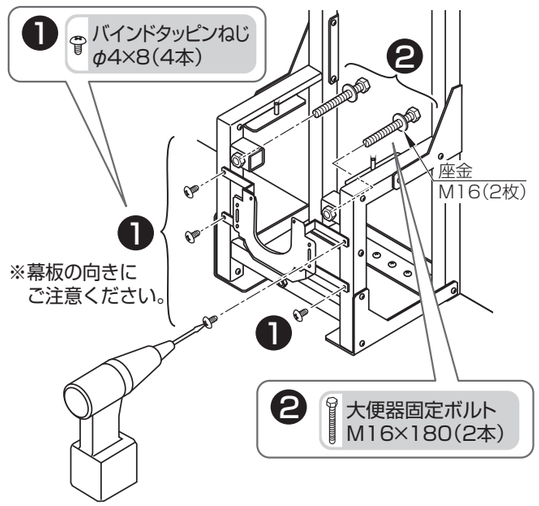
⚠ 注意

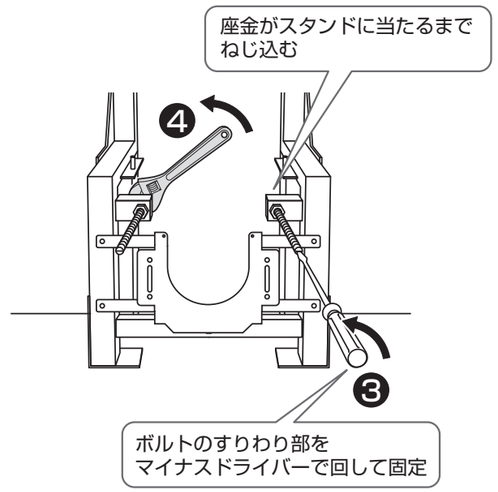
必ず守る

横壁と間口調整材とにすき間があかないようにする

商品が破損・落下し、けがの恐れがあります。

2 幕板・大便器固定ボルトの取り付け





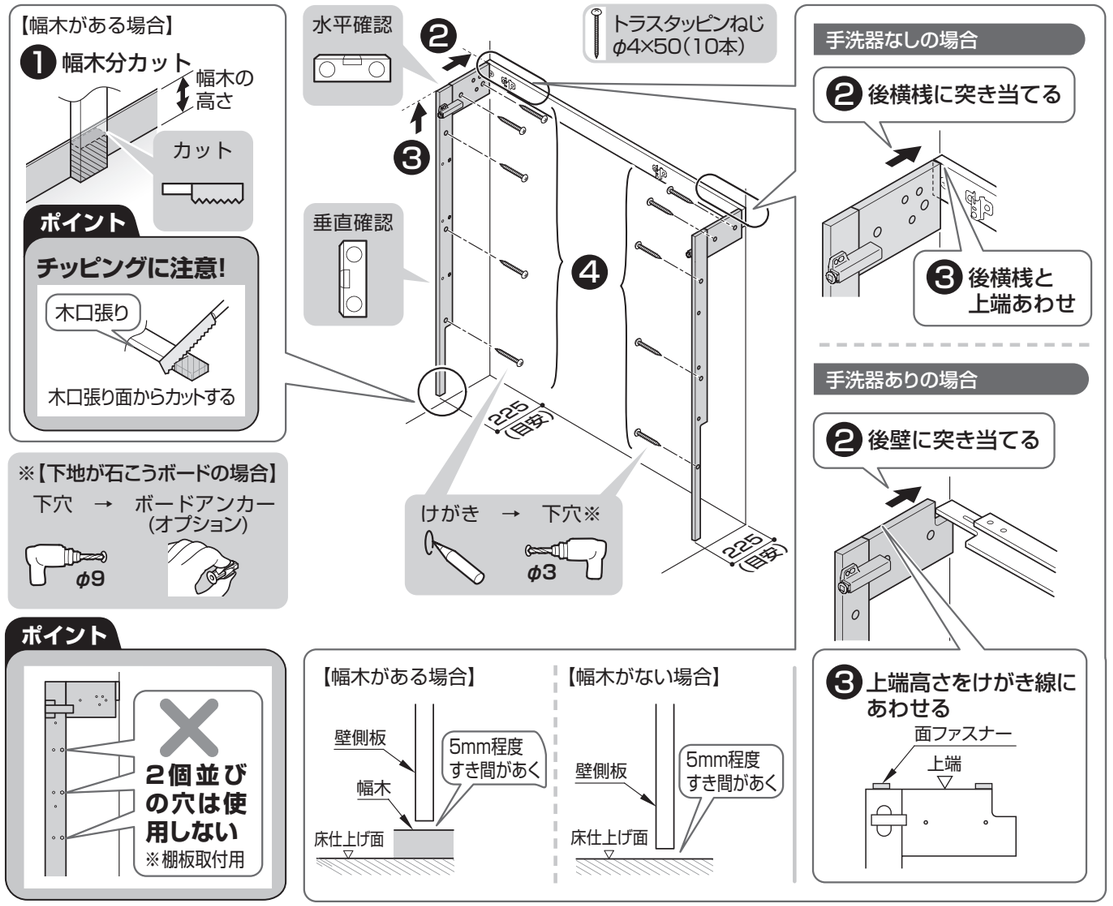
ポイント

大便器固定ボルトの頭部分をスパナなどの工具でしっかりと締め付ける。

MEMO

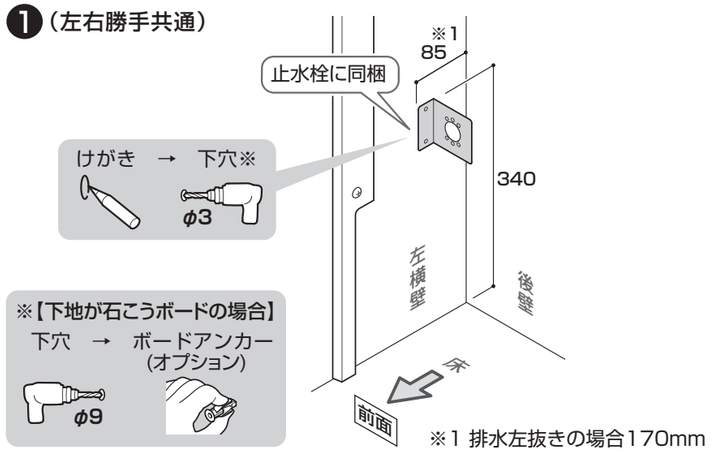
3.壁側板

1 左右の壁側板の取り付け



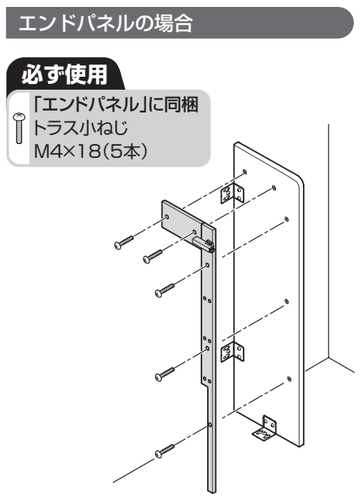
既存給水流用（一般地・流動方式）場合

❶（左右勝手共通）



※1 排水左抜きの場合170mm

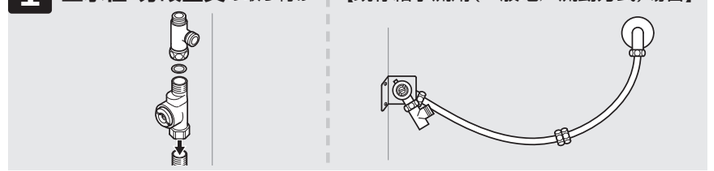
エンドパネルの場合



4.止水栓

【給水新設】タイプと【既存給水流用】タイプで施工方法が異なります。
商品タイプをご確認のうえ、作業を進めてください。

1 止水栓・分岐金具の取り付け



給水新設 ▶P.25

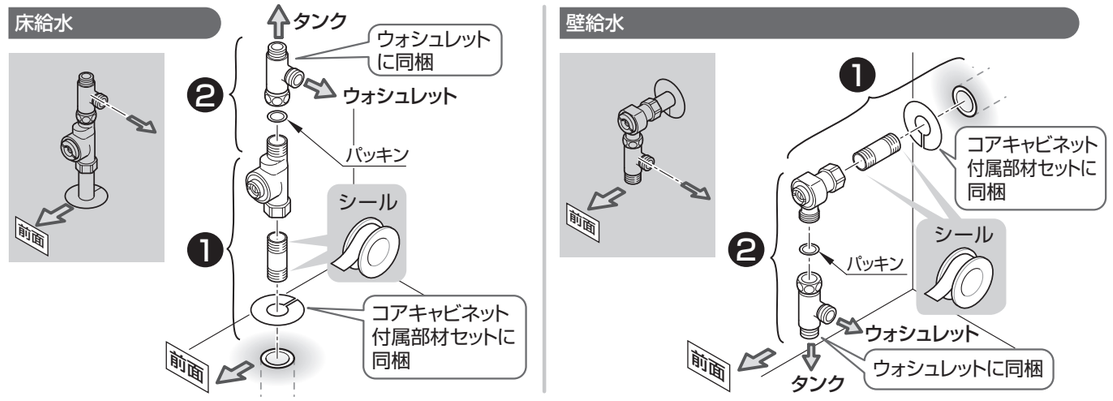
既存給水流用
▶P.25 一般地／流動方式
▶P.27 水抜方式

給水新設

1 止水栓・分岐金具の取り付け

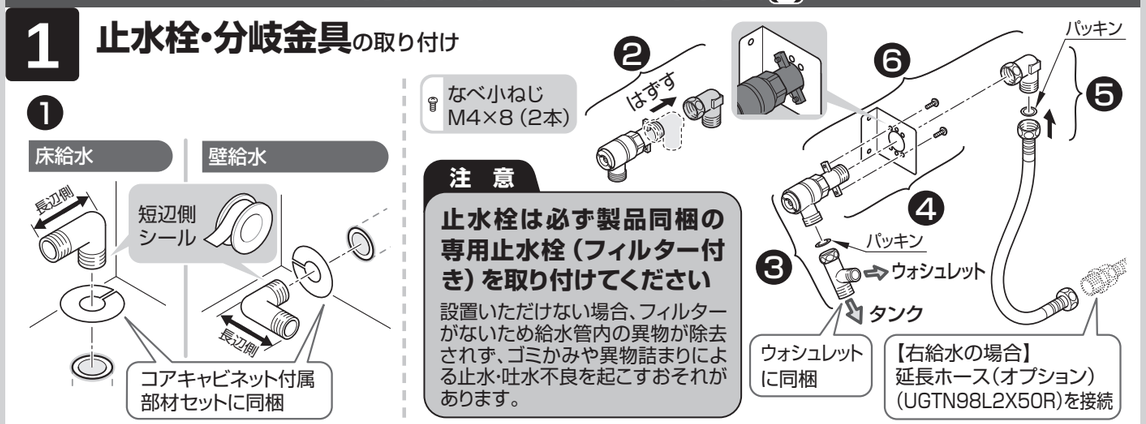
ポイント
左右勝手とも取り付け位置は正面向かって左

注 意
止水栓は必ず製品同梱の専用止水栓（フィルター付き）を取り付けてください
設置いただけない場合、フィルターがないため給水管内の異物が除去されず、ゴミかみや異物詰まりによる止水・吐水不良を起こすおそれがあります。



既存給水流用 一般地／流動方式

1 止水栓・分岐金具の取り付け



注 意
止水栓は必ず製品同梱の専用止水栓（フィルター付き）を取り付けてください
設置いただけない場合、フィルターがないため給水管内の異物が除去されず、ゴミかみや異物詰まりによる止水・吐水不良を起こすおそれがあります。

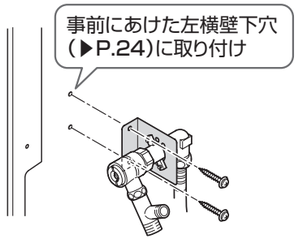
❼

座金付タッピンねじ
φ4.5×38（2本）

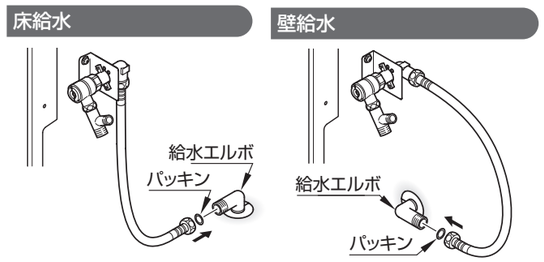
【エンドパネルに壁側板を取り付けている場合】

必ず使用

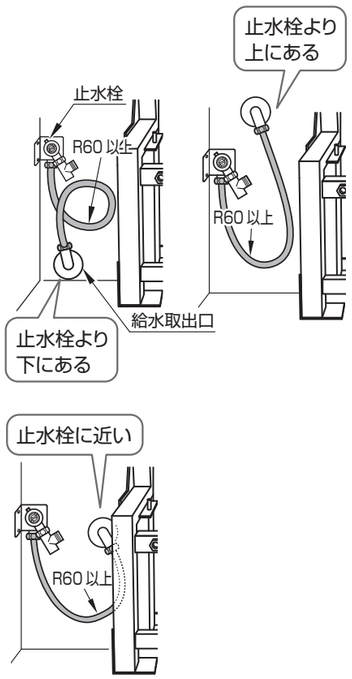
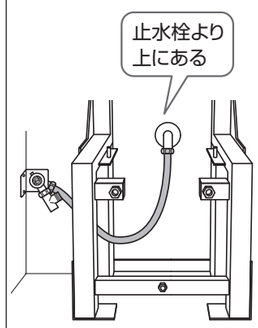
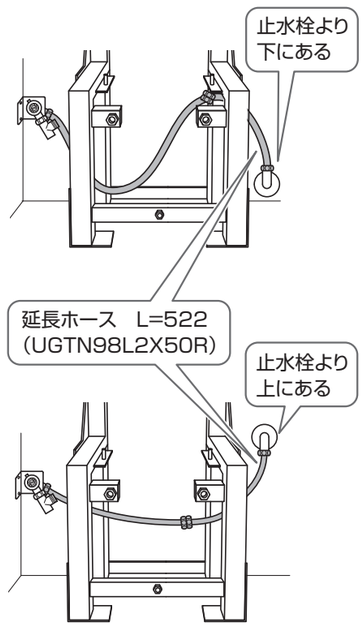
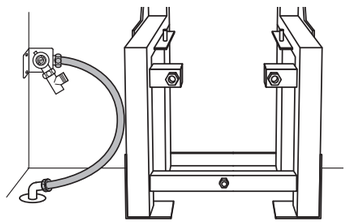
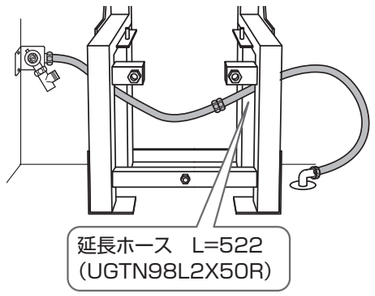
「エンドパネル」に同梱
トラスタッピンねじ
φ4×12（2本）



❽ ※給水ホースの取り回しは下欄参照



給水ホースの取り回し

	給水位置がスタンドの左の場合	給水位置がスタンドの内部の場合	給水位置がスタンドの右の場合
壁給水			 ※給水位置が床仕上げ面から580mm以上の場合は、棚板を取り付けることができません。
床給水		――	

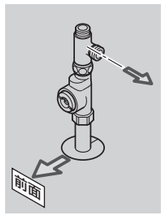
既存給水流用　水抜方式

1 止水栓・分岐金具の取り付け

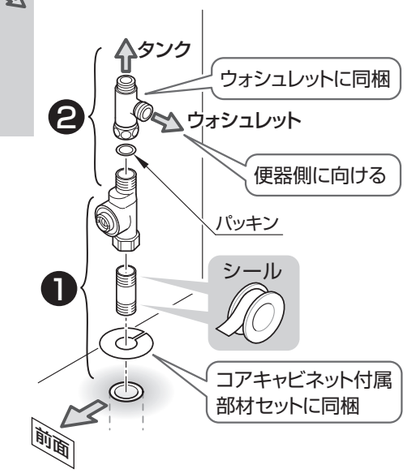
注　意

止水栓は必ず製品同梱の専用止水栓（フィルター付き）を取り付けてください

設置いただけない場合、フィルターがないため給水管内の異物が除去されず、ゴミかみや異物詰まりによる止水・吐水不良を起こすおそれがあります。



※図は止水栓が左側にある場合



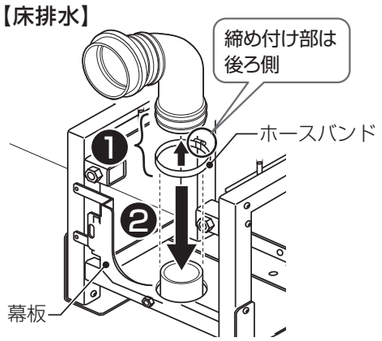
MEMO

MEMO

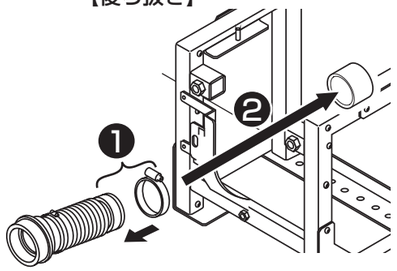
5.排水接続管

1 排水接続管の取り付け

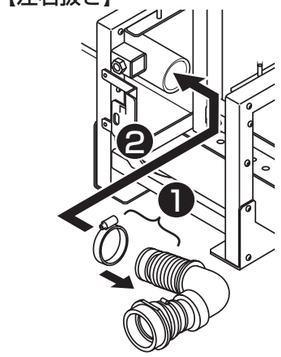
【床排水】



【後ろ抜き】



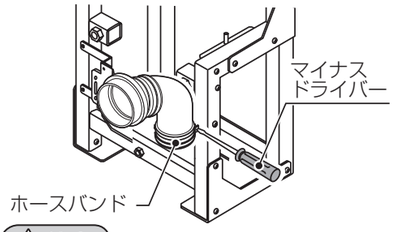
【左右抜き】



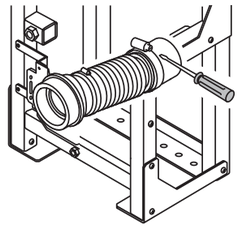
ポイント

❸

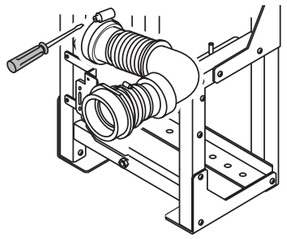
【床排水】



【後ろ抜き】



【左右抜き】



⚠ 注意

禁止

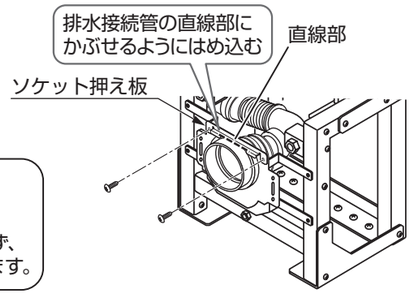
ホースバンドは、電動ドライバーで締め付けない

排水接続管にしわがよったり破れたりして、水漏れし、家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

【左右抜きの場合のみ】

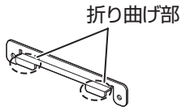
❹ ソケット押え板を取り付け

バインドタッピンねじ
φ4×8（2本）



ポイント

折り曲げ部を
手前に取り付ける



⚠ 注意

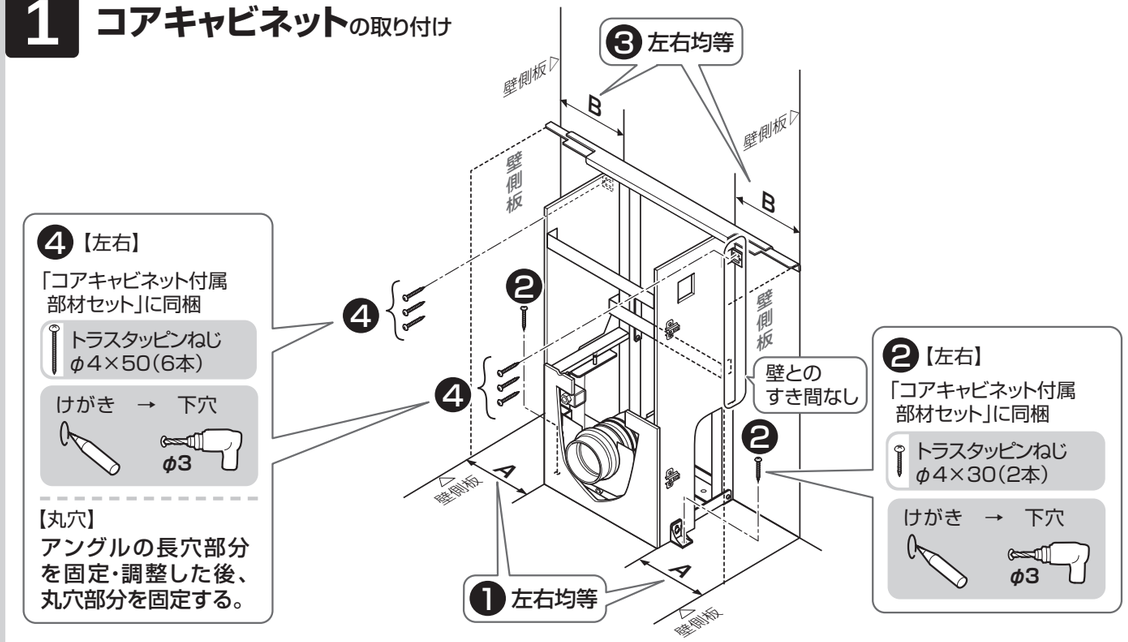
必ず守る

ソケット押え板を正しく取り付ける

排水接続管が水平にならず、逆勾配となることがあります。

6.コアキャビネット

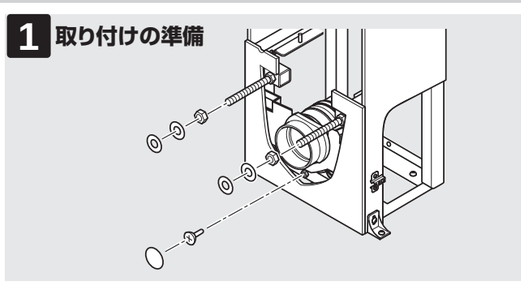
1 コアキャビネットの取り付け



MEMO

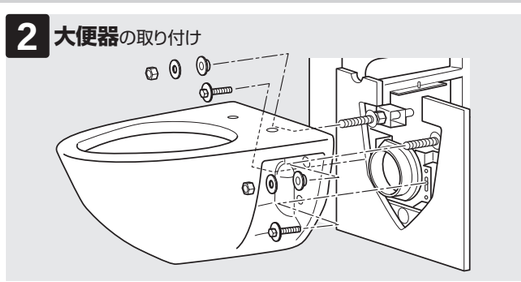
7.大便器

1 取り付けの準備



▶P.30

2 大便器の取り付け

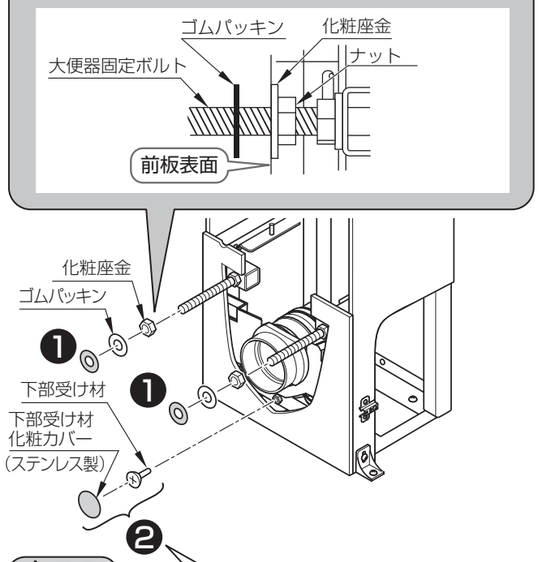


▶P.31

1 取り付けの準備

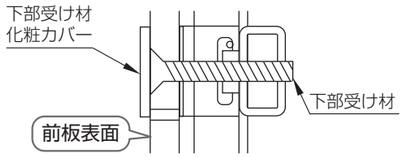
ポイント

化粧座金の前面は前板表面と同一面にセットする



⚠ 注意

下部受け材の頭が前板表面と同一面になるようにする



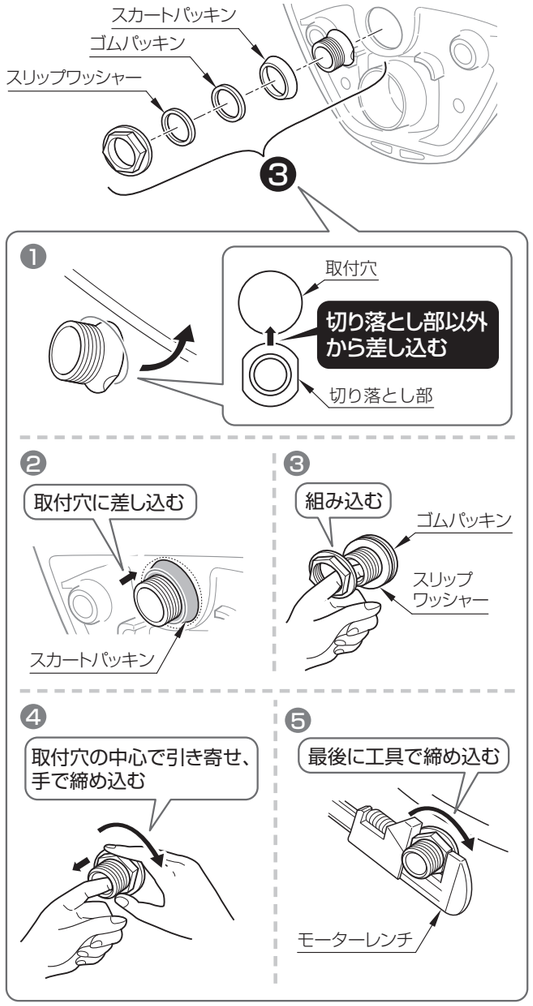
必ず守る

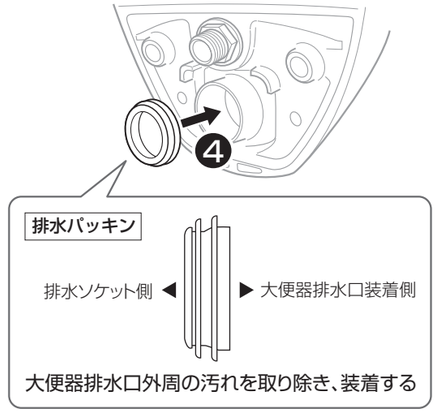
面一になっていないと便器着座時に異音や沈み込みの原因となります。

大便器の給排水のシール部が変動したりして水漏れし、家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

ポイント

大便器の底に張っている養生シールは大便器の取り付けが完了するまではがさない





⚠ 注意

禁止

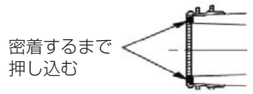
排水パッキン表面に必ず水または石けん水をつけてから差し込み、グリスは使用しない

劣化し水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

必ず守る

排水パッキンは大便器排水口に密着するまで押し込む

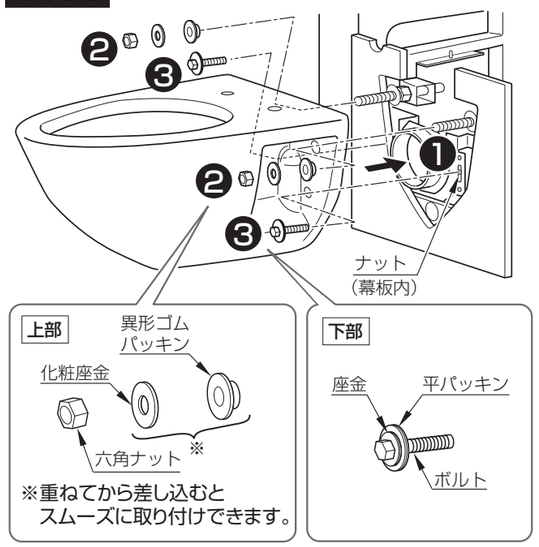
水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。



2 大便器の取り付け

※前板（下）に養生シートが張ってある場合は、大便器を取り付ける前にはがしてください。

仮固定



※重ねてから差し込むとスムーズに取り付けできます。

本固定

❹ 上部の六角ナットを交互に締め付け本固定

ポイント

適切な締付けトルクで締め付けるため
六角ナット・・・中モンキー
ボルト・・・・・小モンキー
の使用をおすすめします。

ポイント

便器の先端を押して、前板と便器のすき間が目立たないことを確認する

注　意

パッキンの擦れる音がしたら、六角ナットの締め込みすぎです。

❺ 下部のボルトを交互に締め付け本固定

ポイント

パッキンに弾力が残る程度まで締め付ける

⚠ 注意

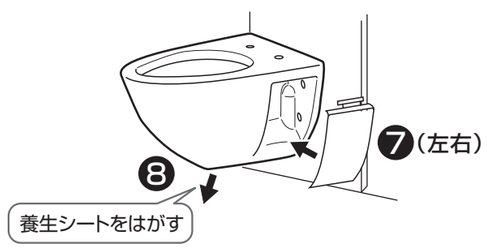
必ず守る

便器下端を必ず下部受け材化粧カバー（ステンレス製）に接触させ、便器にかかる荷重を2本の大便器固定ボルトと下部受け材の3点で支持するようにする

3点でバランスよく支持しないと便器に荷重がかかった際に便器が割れ、けがの原因となります。

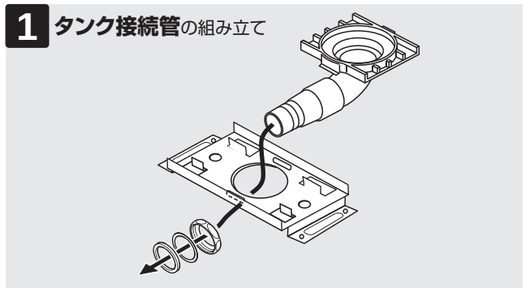
❻ ぐらつきおよび異音有無の確認

便器先端に両手で荷重をかけ
□便器がぐらつかないこと
□異音発生のないこと



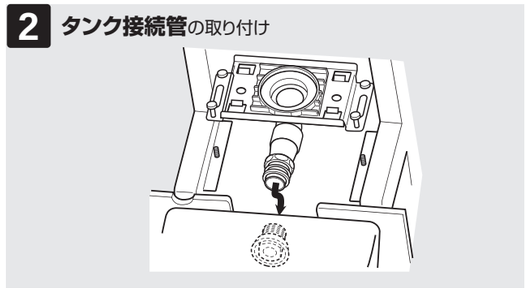
8.タンク接続管

1 タンク接続管の組み立て



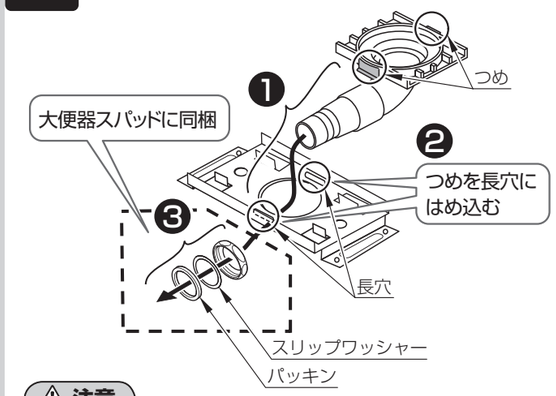
▶P.32

2 タンク接続管の取り付け



▶P.32

1 タンク接続管の組み立て



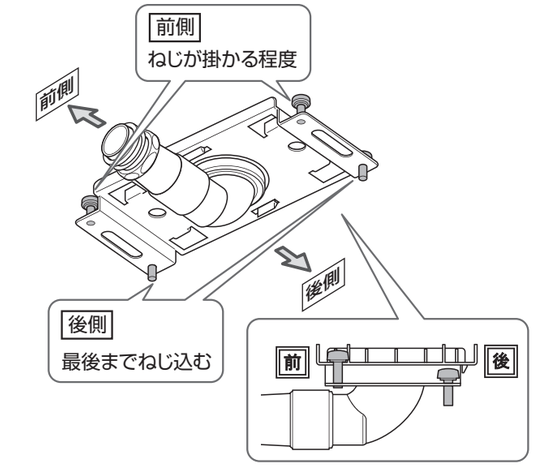
⚠ 注意

必ず守る

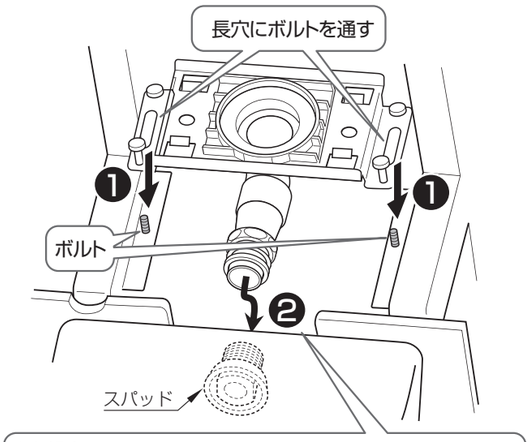
袋ナット・スリップワッシャー・パッキンの取り付け順番を間違えないようにする

水漏れして、家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

❹ 高さ調節ねじの取り付け



2 タンク接続管の取り付け

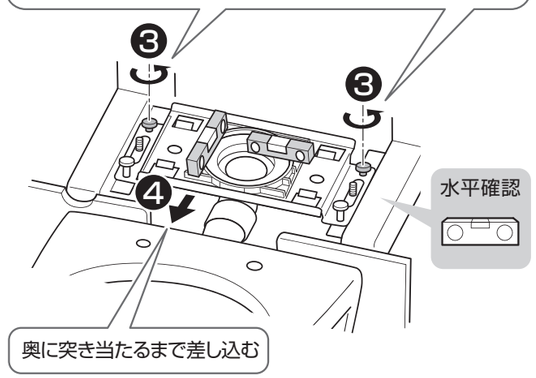


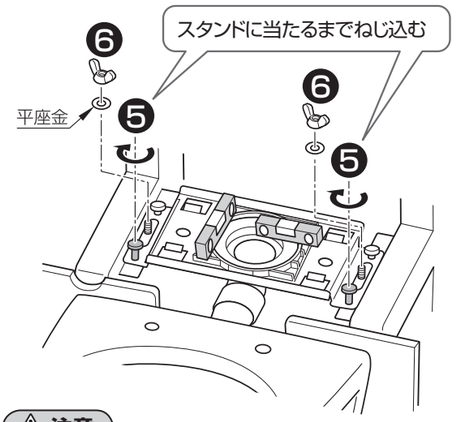
差し込む

タンク固定板が傾いているため、接続管はスパッドには先端しか入らないので、無理に押し込まない

ゆるめて前後・左右水平に調整

高さ調整ねじを緩めても水平にならない場合は、タンク接続管をスパッドから外して、軽く差し込んで、再度調整してください。





⚠ 注意

必ず守る

平座金は水平にセットすること

タンク固定板の固定が不十分となり便器着座時の異音発生の原因となります。

蝶ナットはしっかりと締め付ける

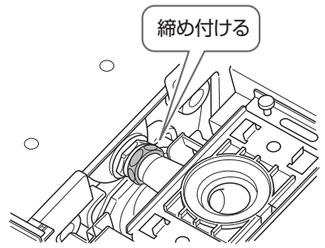
タンク接続部から、水漏れして、家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

ポイント

下記内容を確認してください。

・タンク接続管がスパッドの奥にあたっていること
・タンク接続管が前後左右水平であること
・蝶ナット、高さ調整ねじにゆるみ、ガタつきがないこと
※タンク接続管が水平でない場合、後でタンクを設置した際、タンクが傾きキャビネット・スタンドと干渉します。

❼

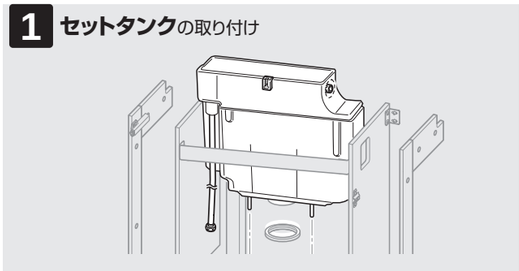


MEMO

MEMO

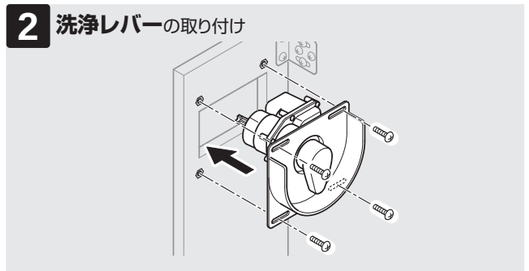
9.セットタンク

1 セットタンクの取り付け



▶P.34

2 洗浄レバーの取り付け



▶P.35

1 セットタンクの取り付け

❷ タンク接続管にのせる

⚠ 注意

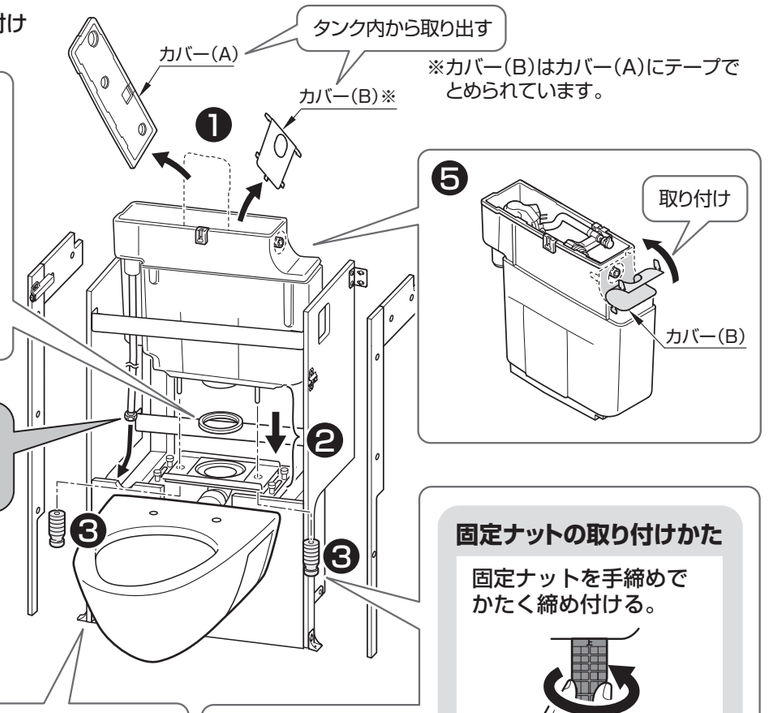
必ず守る

タンクにパッキンがセットされていることを確認する

水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

ポイント

セットタンクの給水ホースはスタンドとコアキャビネット側板のすき間を通す



※カバー(B)はカバー(A)にテープでとめられています。

固定ナットの取り付けかた

固定ナットを手締めでかたく締め付ける。

⚠ 注意

必ず守る

左右の固定ナットを確実に締める

水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

⚠ 注意

工具使用禁止

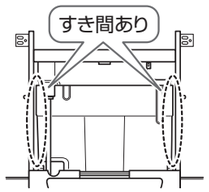
固定ナットを締め付けるときは必ず手で行う

工具を使用すると破損するおそれがあります。

❹ すき間確認

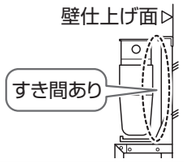
□タンク接続管とタンク下部の板金(黒)との間

□タンクとコアキャビネット側板の間



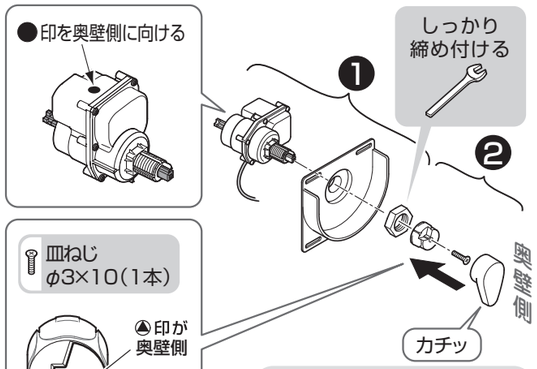
□タンクとスタンドの間

※タンクがキャビネット側板に干渉している場合は、タンクを外して、タンク接続管が傾いていないか、確認してください。



2 洗浄レバーの取り付け

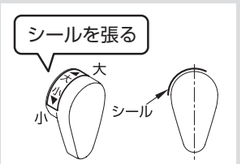
※便器洗浄ユニットに同梱の説明書とは、取り付け向きが異なります。ワッシャーA、ワッシャーBは使用しません。



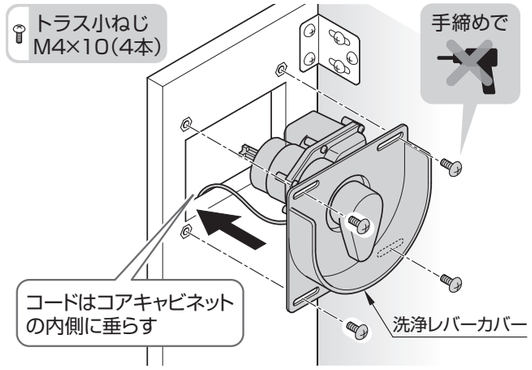
注 意

ガタツキがないようにしっかり締め付けること

シールの張り付け

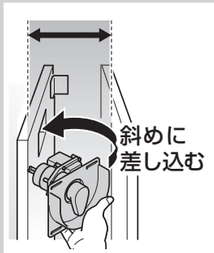


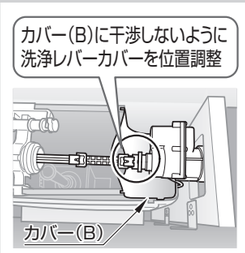
❸



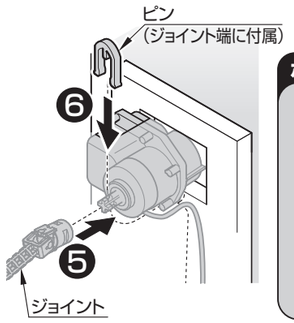
ポイント

【間口が狭い場合】





❹ ジョイントからピンを取り外す



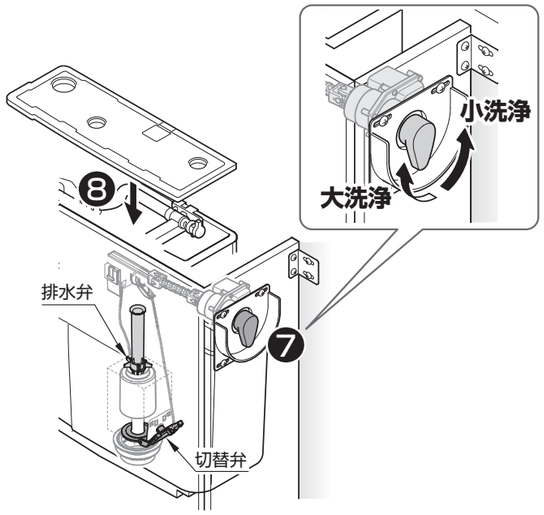
ポイント

ジョイントが抜けないことを確認

ピン固定位置

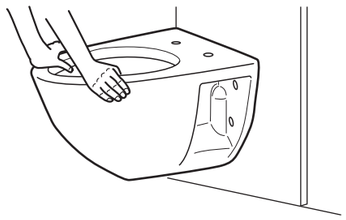
❼ 作動確認

□レバーが「大」側、「小」側へ正常に作動すること
□「大」側に回し、排水弁のみが引き上がること
□「小」側に回し、排水弁・切替弁が引き上がること



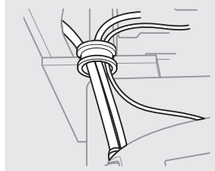
❾ ぐらつきおよび異音有無の確認

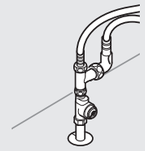
便器先端に両手で荷重をかけ
□便器がぐらつかないこと
□異音発生のないこと

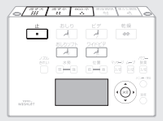


10.ウォシュレット

1 ウォシュレットの設置
▶ウォシュレット施工説明書

2 ホース・コードのはめ込み

▶P.36

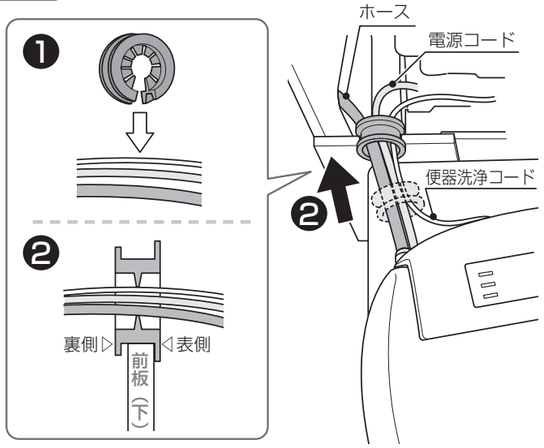
3 ホースの接続

▶P.36

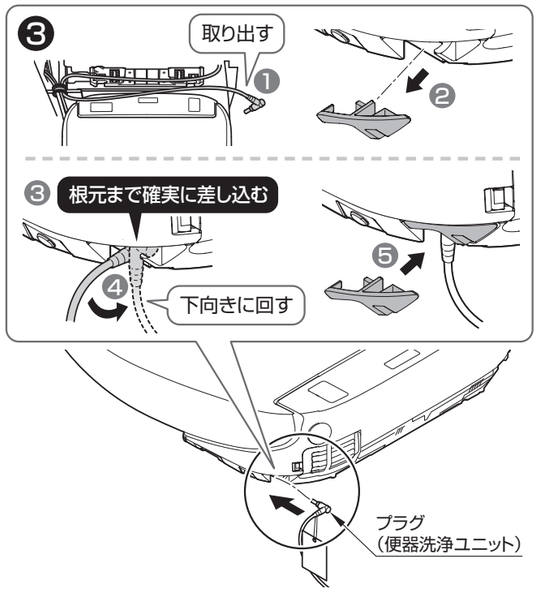
4 リモコン設定の作動確認

▶P.37

1 ウォシュレットの設置 ▶ウォシュレット施工説明書

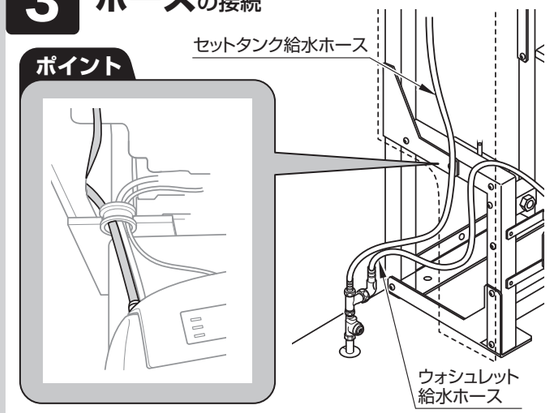
作業がしやすいようにウォシュレットを手前に引き出しておく。

2 ホース・コードのはめ込み



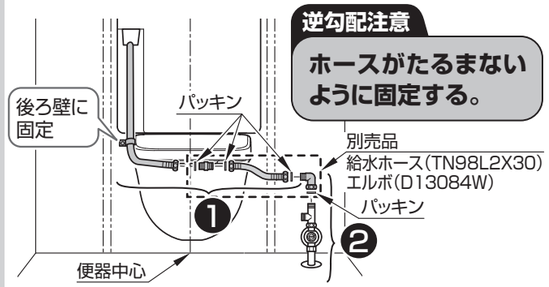


3 ホースの接続



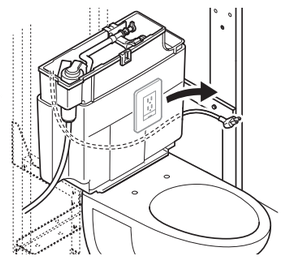
水抜方式

止水栓が右側にある場合



電源コード取り回し

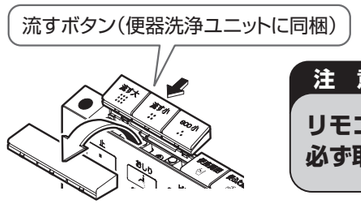
タンク用ヒーターの電源コードをコンセント側に取り回しておく



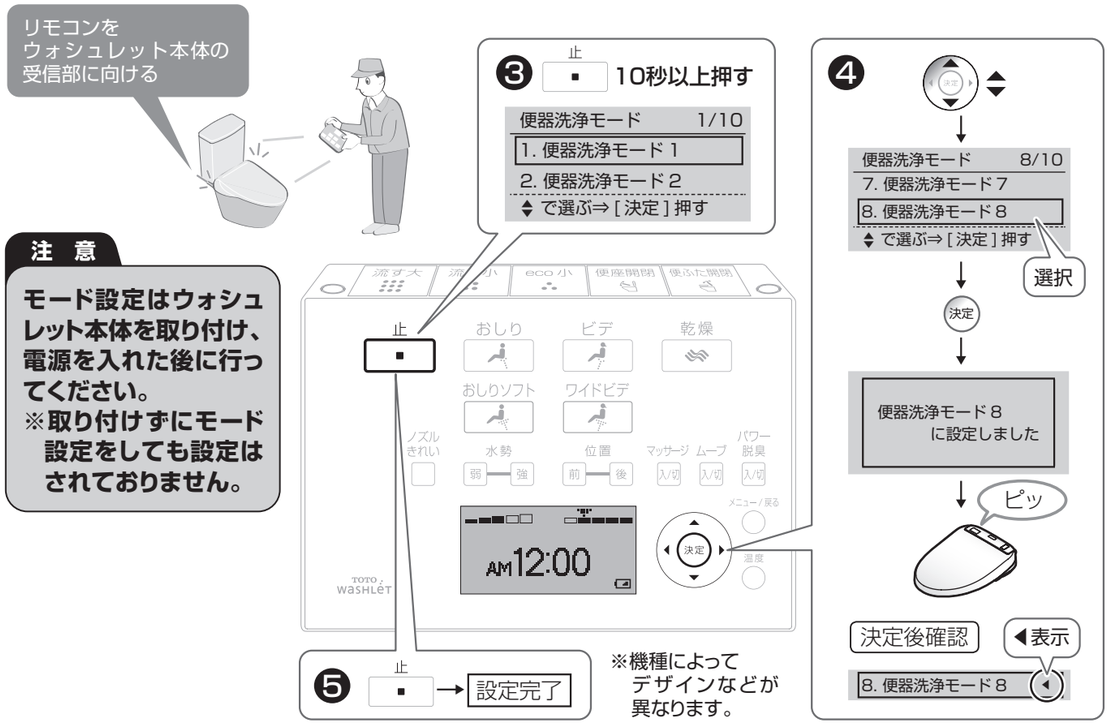
4 リモコンの設定・作動確認

❶ 電源プラグの差し込み
※ノズルがいったん出て戻る初期動作を行うか確認

❷ 流すボタンの取り付け
▶流すボタン取付説明書



注 意
リモコンには流すボタンが取り付いていません。必ず取り付けてください。

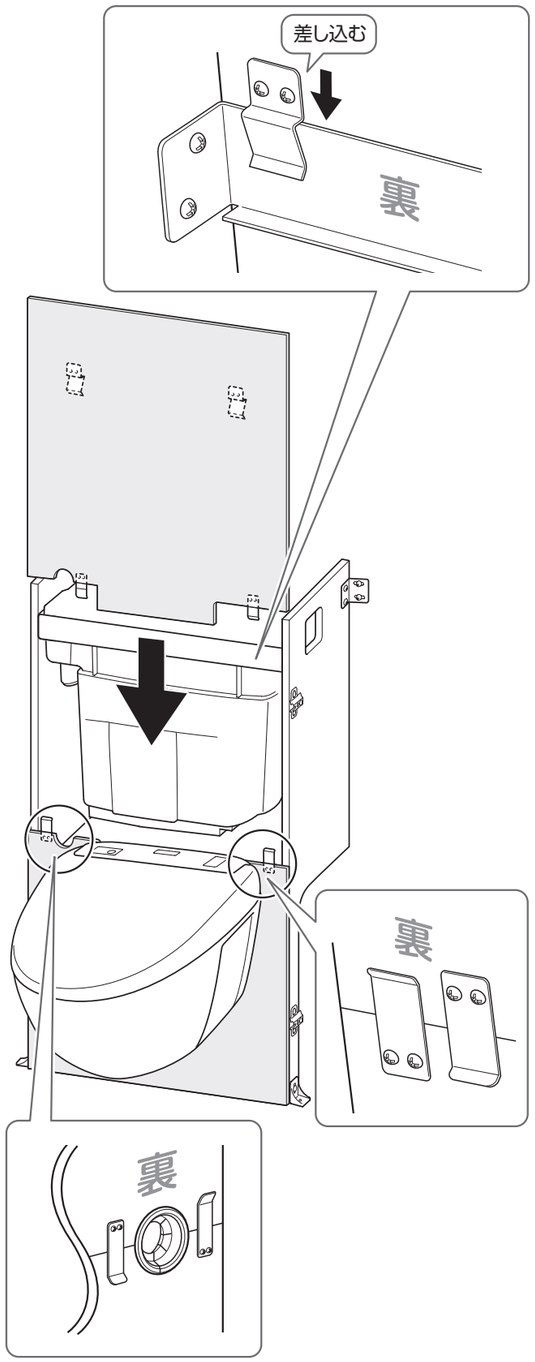


❻ 作動確認
※連続して流すボタンを押しても作動しません。約10秒たってから、もう一度ボタンを押してください。

■正しく作動しない場合は、再度手順❸から設定してください

MEMO

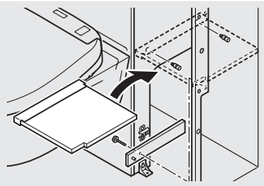
11.前板（上）



MEMO

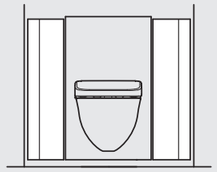
12.棚板・扉

1 棚板の取り付け



▶P.39

2 扉の組み立て

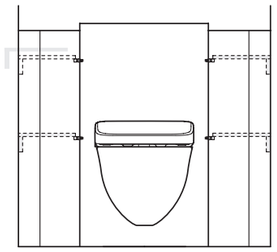


▶P.40

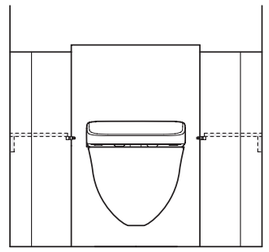
1 棚板の取り付け

棚板設置場所

手洗器なしタイプ



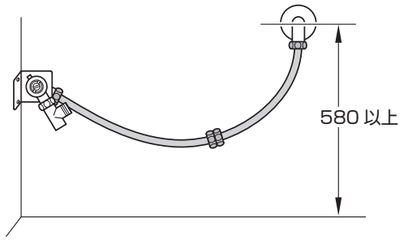
手洗器ありタイプ



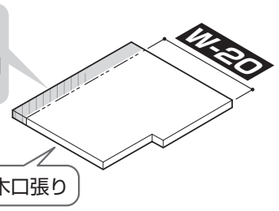
注 意

【右給水で給水高さが580mm以上の場合】

棚板を取り付けできません



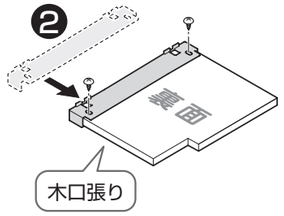
❶ カット



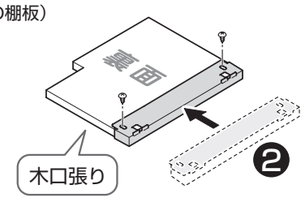
トラスタッピンねじ φ4×10(2本)

手締めで

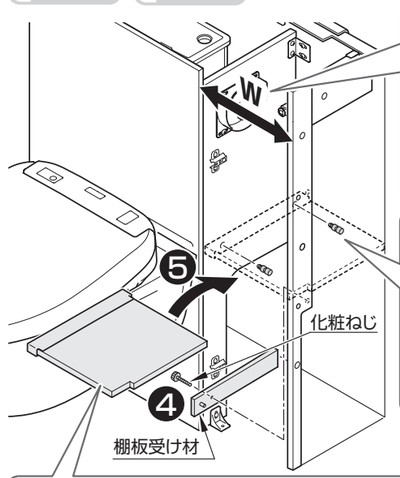
（左側の棚板）

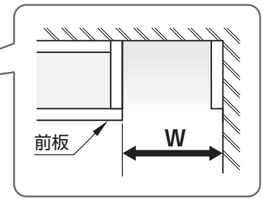


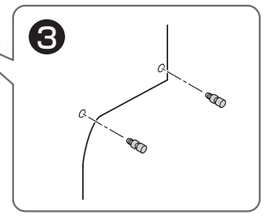
（右側の棚板）



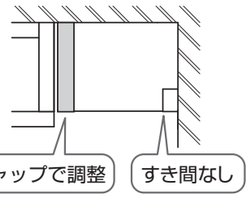
棚受ダボ　化粧ねじ





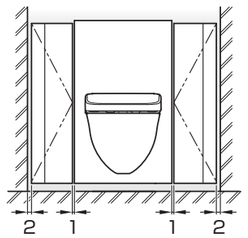


※棚板が傾く、ガタつく場合は、化粧ねじをゆるめて棚板受け材を調整

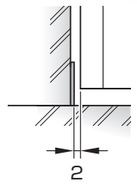


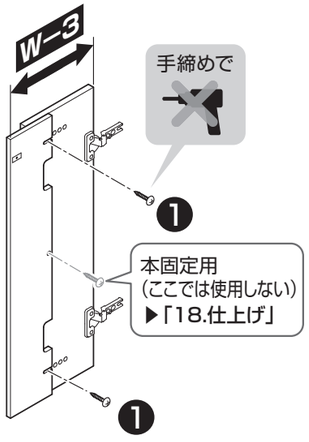
2 扉の組み立て

仕上げ状態（目安）



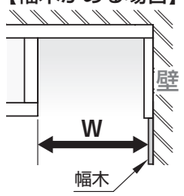
【幅木がある場合】



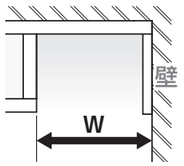


トラスタッピンねじ
φ4×18または
φ4×20（2本）

【幅木がある場合】



【幅木がない場合】

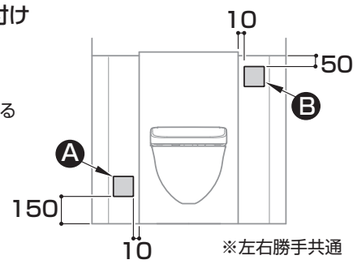


※図は右扉セットの場合
※養生シートがある場合は
取り付け前にシートをはがす

❷ ラベルの張り付け

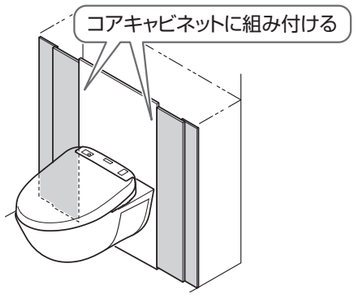
Ⓐ 止水栓ラベル
（GH04207Z）
止水栓がある側に張る

Ⓑ 便器洗浄ラベル
（GH04208V）



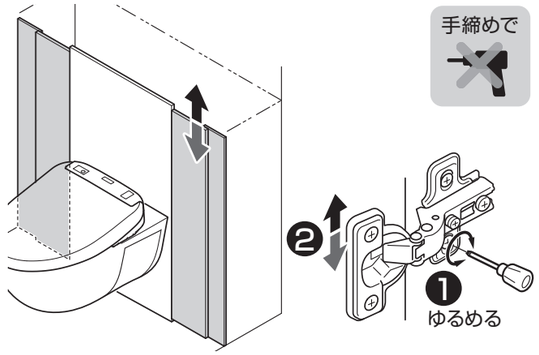
張付位置（参考）

❸ 扉の組み付け

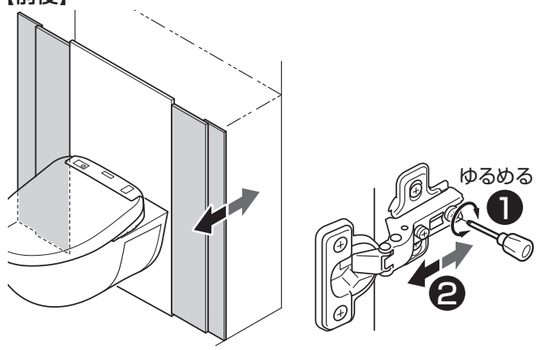


扉の調整

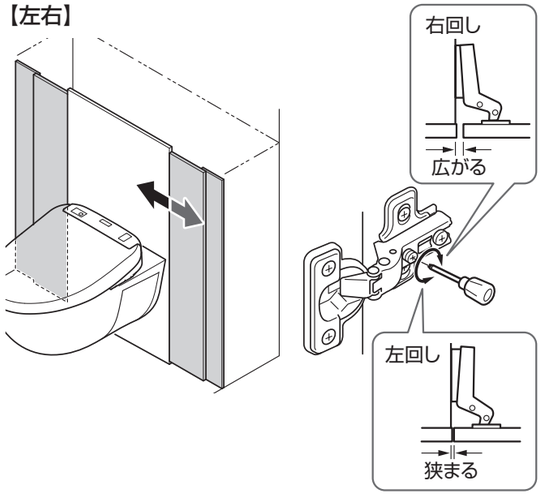
【上下】



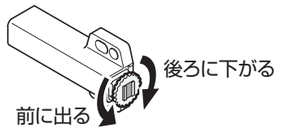
【前後】



【左右】



※プッシュラッチ部も前後調整できます

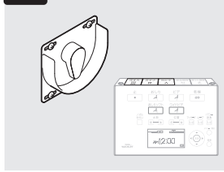


【お引渡し前に】
扉の本固定と調整を必ず行ってください。 ▶P.51

13.試運転・確認

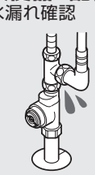
1 ウォシュレット
▶ウォシュレット施工説明書

2 便器洗浄の確認



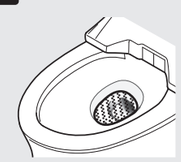
▶P.41

3 大便器・配管類の水漏れ確認



▶P.42

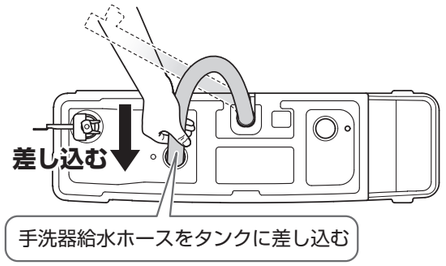
4 水位確認



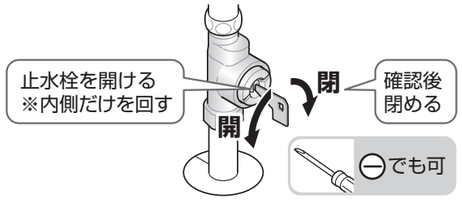
▶P.42

試運転前に

手洗器ありの場合



共通



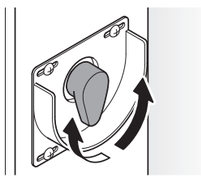
1 ウォシュレット

吐水確認をする
▶ウォシュレット施工説明書

2 便器洗浄の確認

洗浄レバー

【確認ポイント】
□大･小洗浄とも正常に行われるか
□スムーズに回転するか

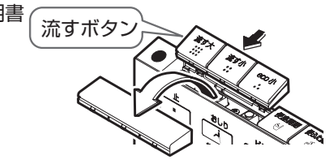


注 意

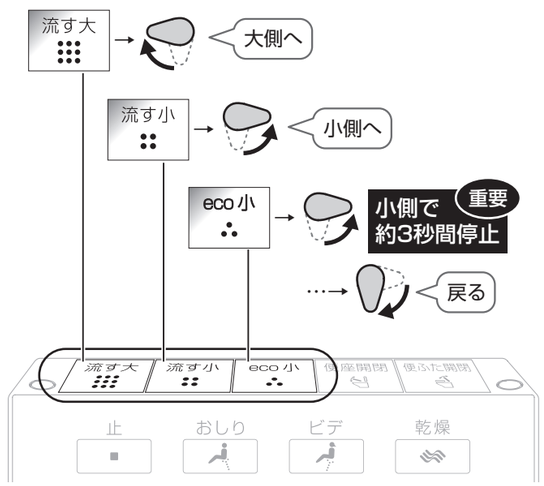
正常に作動しない場合、洗浄レバーカバーの取り付け位置を確認してください。

リモコン

流すボタンが取り付けられているか
▶流すボタン取付説明書



作動確認
【確認のポイント】
□「大」・「小」・「eco小」のボタンを押して、それぞれの洗浄が正常に行われるか
※連続して押すと作動しません。
約10秒たってから、もう一度ボタンを押してください。



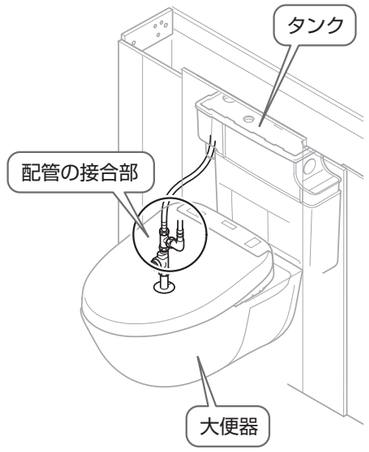
※機種によってデザインなどが異なります。

試運転完了後、「運転入/切」が、「入」になっていることを確認する（「運転ランプ」点灯）

「切」のときは、電源プラグをコンセントに差し込んでもウォシュレットは作動しません。
※お客様に引き渡すまでに時間があっても「運転入/切」を切らないでください。

3 大便器・配管類の水漏れ確認

2～3度洗浄させて、水漏れなどがないことを確認する



MEMO

必ず実施してください

4 水位確認

正常な状態
設定変更不要です。

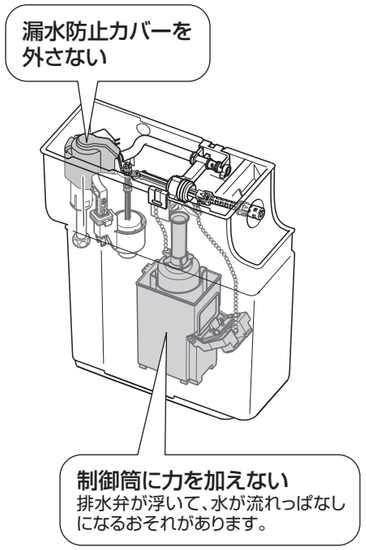
設定を行うと、洗浄不良になる場合があります。

水たまり面が低い
設定変更してください。
▶P.43
「水たまり面が低い場合の対応方法」

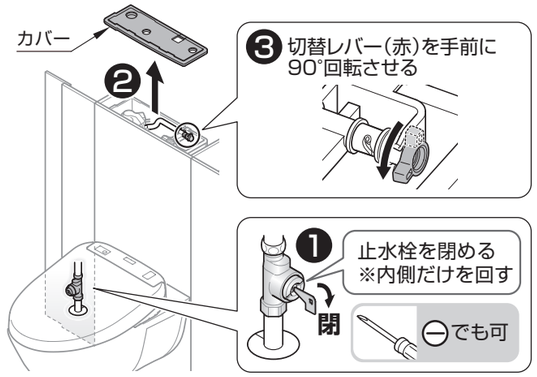
汚物付着の原因になります。
〈水たまり面　低下の理由〉
・排水管に曲がりが多い
・通気が不十分

〈水たまり面の判断に迷ったときは…〉
ペットボトルやバケツなどで徐々に水をたし、
水たまり面が上昇しない場合は正常です。

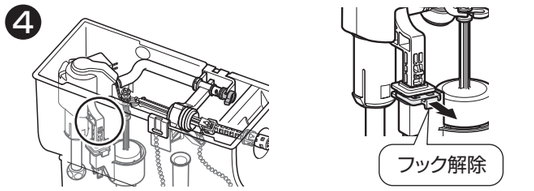
タンク内を調整する際のご注意



水たまり面が低い場合の対応方法



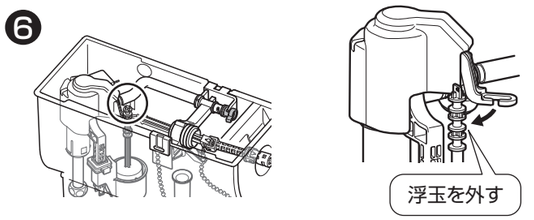
❹



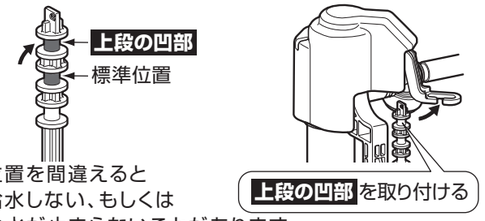
❺

位置を間違えると給水しない、もしくは給水が止まらないことがあります。

❻



❼



位置を間違えると
給水しない、もしくは
給水が止まらないことがあります。

❽ カバーを元にもどす

❾ 完了後の確認
□止水栓を開け、2～3度洗浄させて、水漏れなどがないか
□正常に洗浄するか
□**洗浄後、水たまり面の低下がないか**

自治体によって洗浄水量の規制がある場合

【変更前】

大洗浄	4.8L
小洗浄	3.6L
eco小洗浄	3.4L

変更できます。

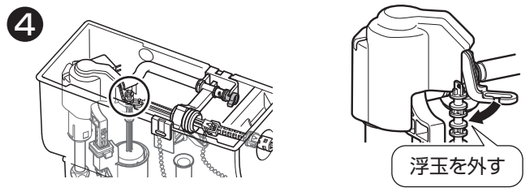
大洗浄	6L
小洗浄	4.8L
eco小洗浄	4.6L

大洗浄	8L
小洗浄	7.5L
eco小洗浄	7L

大洗浄6L、小洗浄4.8L、eco小洗浄4.6L への切替方法

❶～❸
▶P.43左 水たまり面が低い場合の対応方法 の
❶～❸を実施

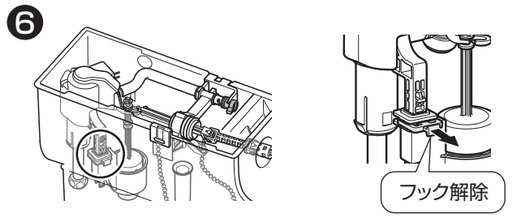
❹



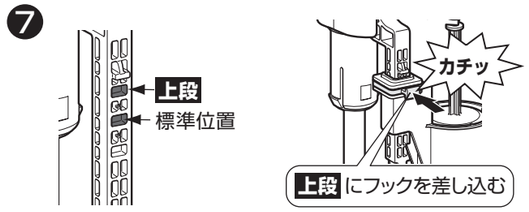
❺

位置を間違えると
給水しない、もしくは
給水が止まらないことがあります。

❻



❼



位置を間違えると給水しない、もしくは給水が止まらないことがあります。

❽ カバーを元にもどす

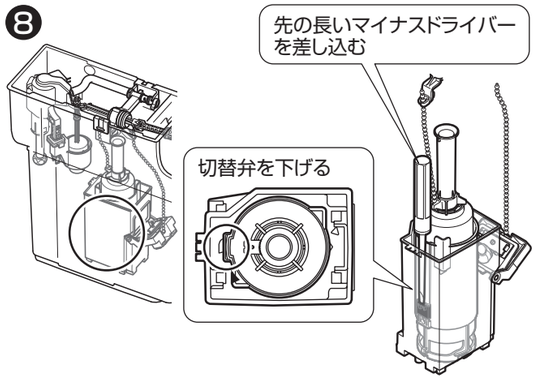
❾ 完了後の確認
□止水栓を開け、2～3度洗浄させて、水漏れなどがないか
□正常に洗浄するか
□**洗浄後、水たまり面の低下がないか**

大洗浄8L、小洗浄7.5L、eco小洗浄7L への切替方法

❶～❼

▶P.43右 大洗浄6L、小洗浄4.8L、eco小洗浄4.6L の ❶～❼を実施

❽

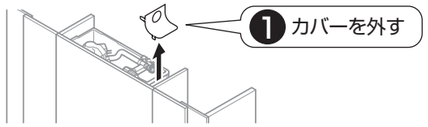


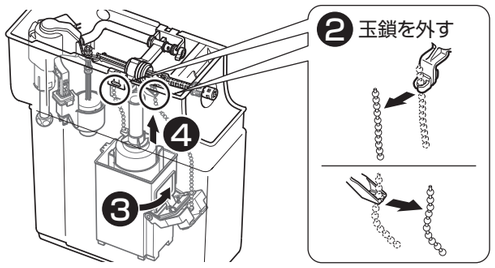
❾ カバーを元にもどす

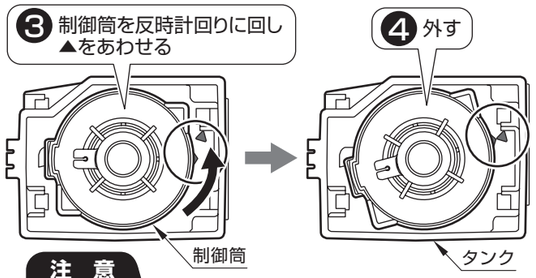
❿ 完了後の確認

□止水栓を開け、2～3度洗浄させて、水漏れなどがないか
□正常に洗浄するか
□**洗浄後、水たまり面の低下がないか**

切替弁を下げられなかった場合



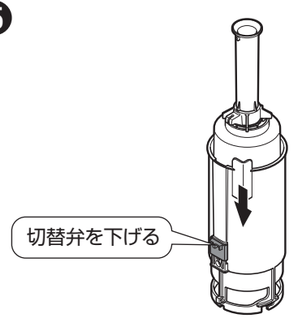


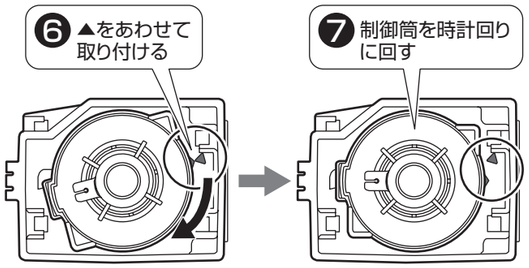


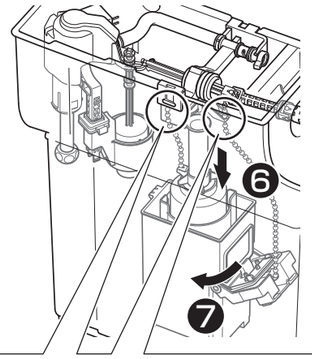
注　意

制御筒の取り外し時に樹脂タンクに傷を付けないこと

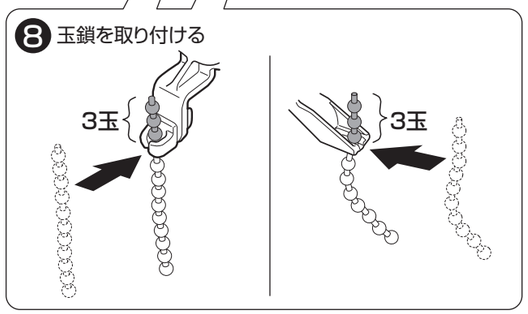
❺







❽ 玉鎖を取り付ける



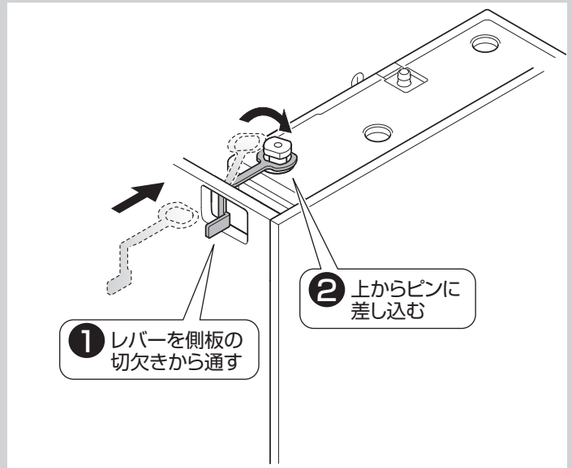
正しく取り付けないと止水不良になります。

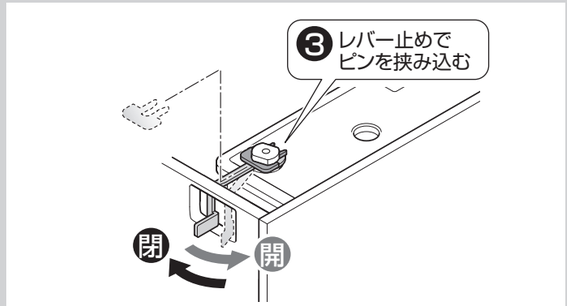
❾ カバー（2個）を元にもどす

❿ 完了後の確認

□止水栓を開け、2～3度洗浄させて、水漏れなどがないか
□正常に洗浄するか
□**洗浄後、水たまり面の低下がないか**

14.流動レバー 寒冷地の場合





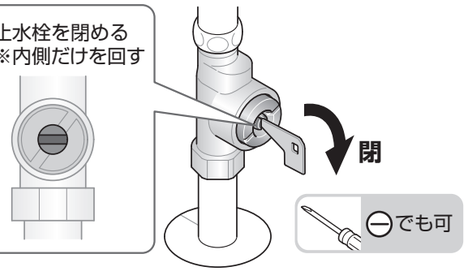
❹ 作動確認

□流動レバーを手前に回し、水を流す。
□作動確認後、流動レバーを奥壁側に回し、閉まることを確認する。
□確認後、止水栓を閉める。

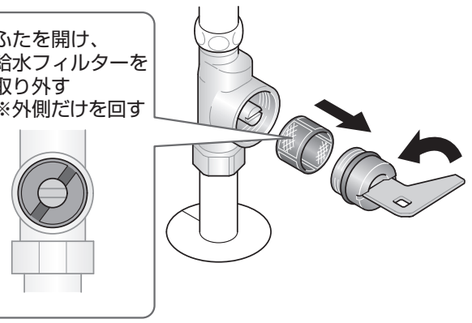
15.給水フィルターの清掃

必ず実施してください

❶ 止水栓を閉める
※内側だけを回す

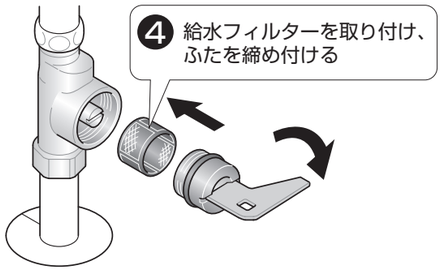


❷ ふたを開け、給水フィルターを取り外す
※外側だけを回す



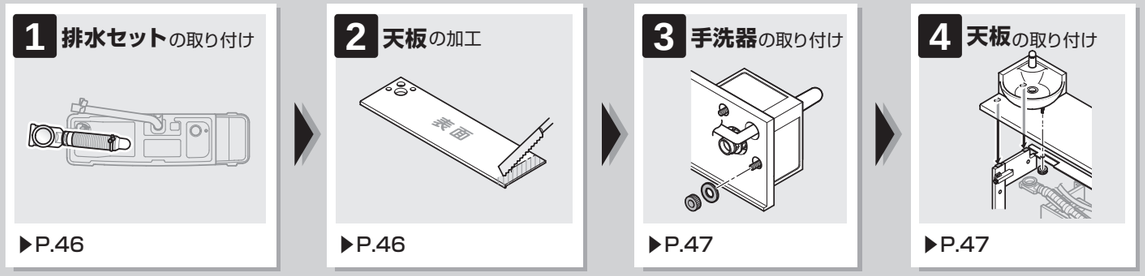
※止水栓は必ず製品同梱の専用止水栓（フィルター付き）を取り付けてください。

❸ 給水フィルターの清掃



16−1. 天板 【手洗器あり】

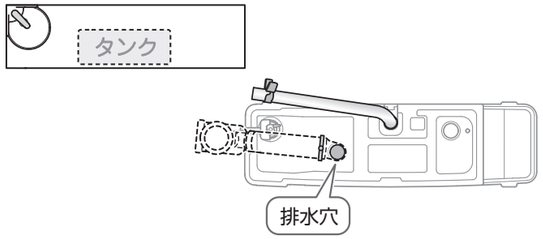
「手洗器なし」の場合は、P.49を参照してください。



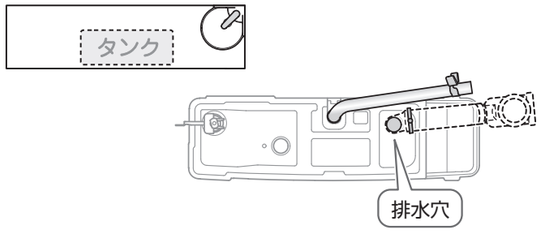
1 排水セットの取り付け

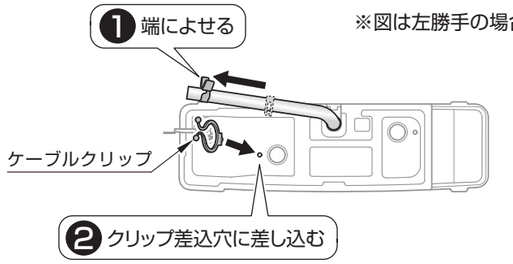
左右勝手違いで、使用する穴位置が異なります。

左勝手



右勝手



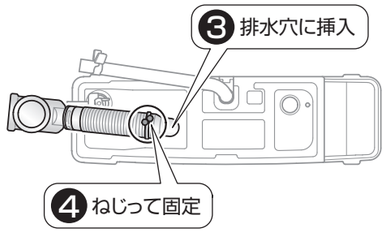


⚠ 注意

必ず守る

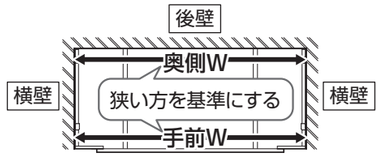
ケーブルクリップを必ず付ける

ジャバラホースがはずれ、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

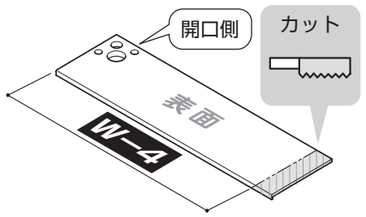


2 天板の加工

❶ W寸法測定



❷ 天板のカット



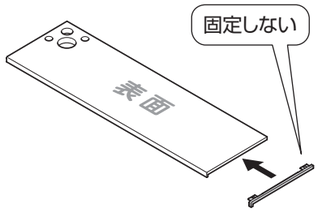
ポイント

チッピングに注意!

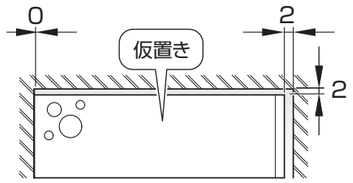
のこぎりの場合は表面からカット

丸のこの場合は裏面からカット

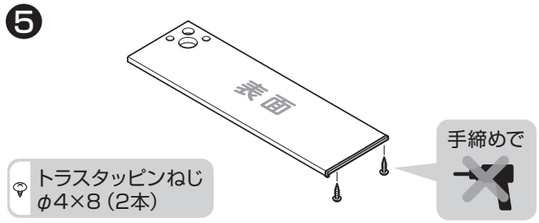
❸



❹ 調整



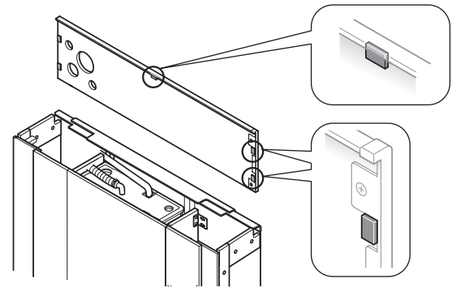
❺



❻ 面ファスナー張り付け（3カ所）

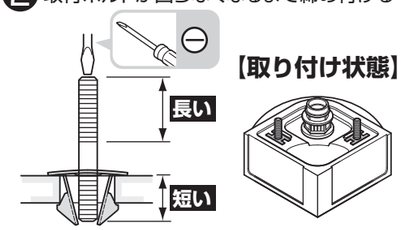
注 意

- **面ファスナーの向き（縦横）に注意する**
- **面ファスナーが天板キャップにかからないこと**



3 手洗器の取り付け

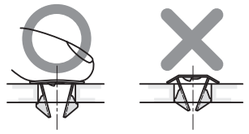
❷ 取付ボルトが回らなくなるまで締め付ける



ポイント

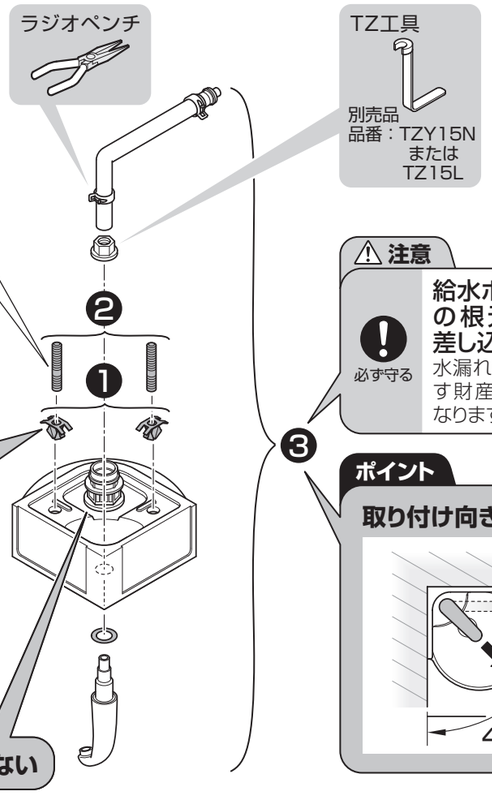
陶器とのすき間がなくなるまで、しっかり押し込む

取付ボルトが途中までしか入らず、手洗器が固定できません。



注 意

排水金具を持たない



⚠ 注意

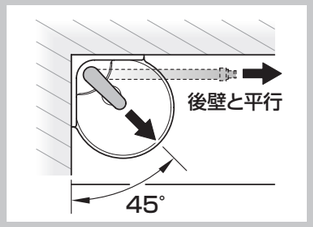
必ず守る

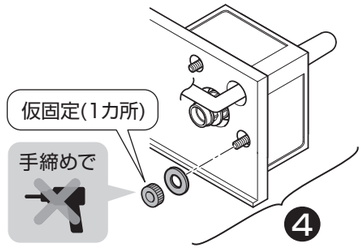
給水ホースはスパウトの根元までしっかり差し込む

水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。

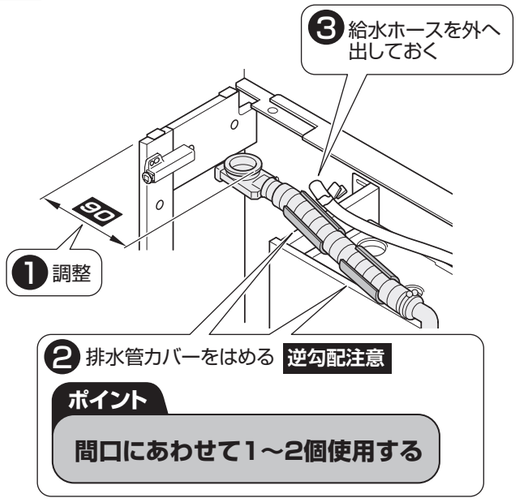
ポイント

取り付け向き注意

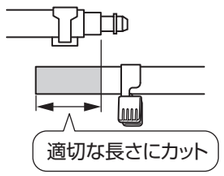




4 天板の取り付け



❹ 給水ホースのカット

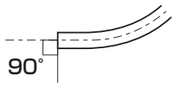


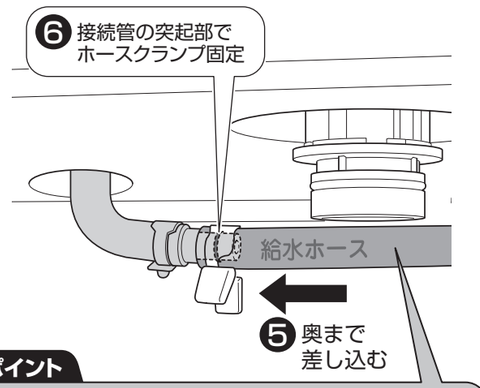
⚠ 注意

必ず守る

- 切断面が垂直になるようにカットする
- 接続後、確実に固定されていることを確認する

水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。



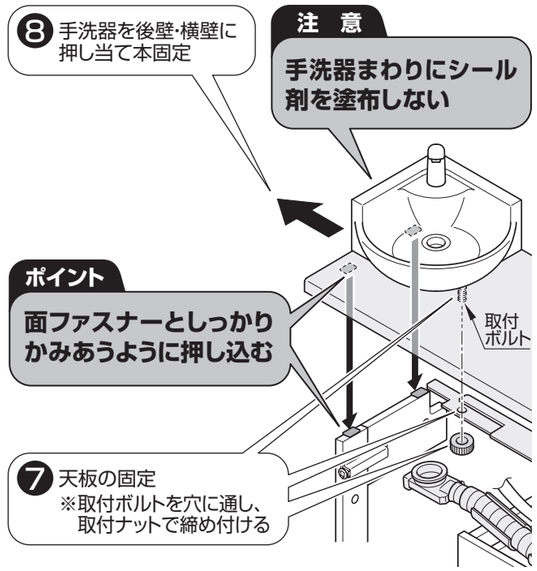


ポイント

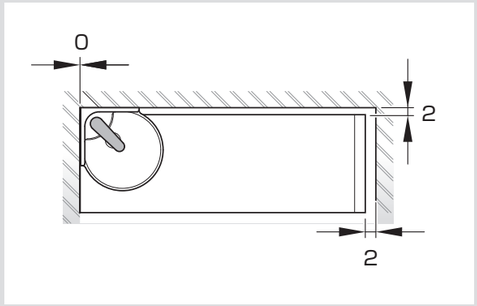
給水ホースがたるまないようにする

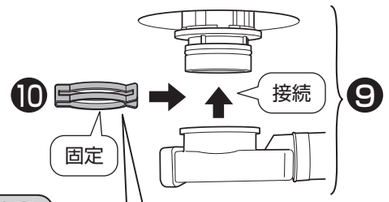
水抜方式の場合は必ず実施する

【タンクからの給水ホースが長い場合】
手洗器給水ホース接続部の接続代を確保してカットし、給水ホースがたるまないようにする



仕上げ状態（目安）



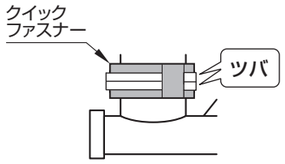


⚠ 注意

必ず守る

クイックファスナーの全周にツバが掛かっていることを確認する
クイックファスナーがスムーズに1回転することを確認する

水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。



16−2. 天板 【手洗器なし】

「手洗器あり」の場合は、P.46を参照してください。

1 天板の加工

❶ W寸法測定

❷ 天板のカット

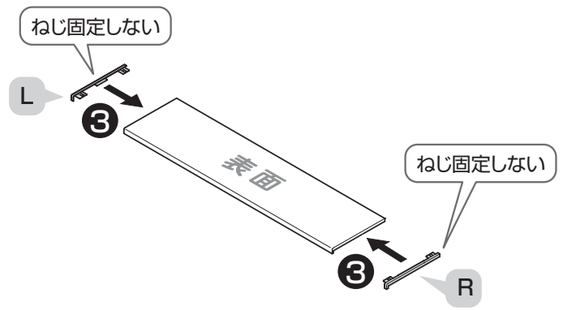
ポイント

鬼目ナット側はカットしない

チッピングに注意!

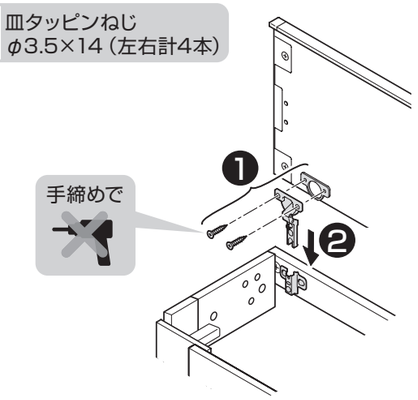
のこぎりの場合は表面からカット

丸のこの場合は裏面からカット

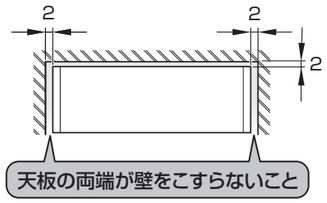


2 天板の取り付け

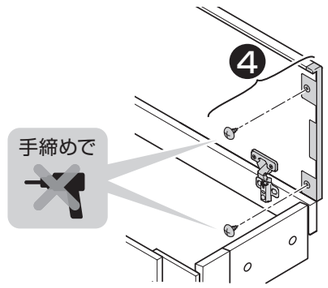
皿タッピンねじ φ3.5×14（左右計4本）



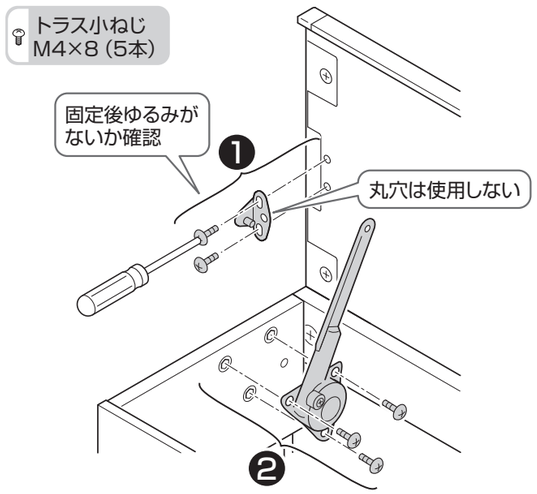
❸ 調整

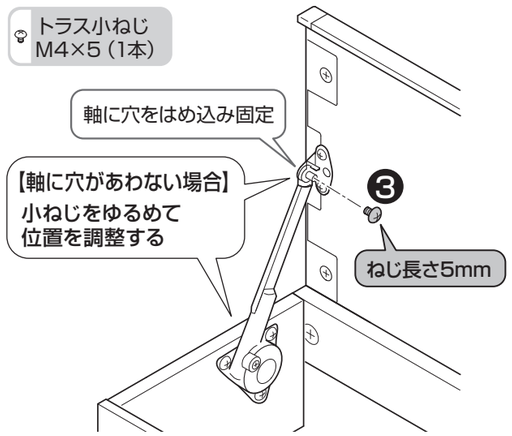


トラスタッピンねじ φ4×8（左右計4本）

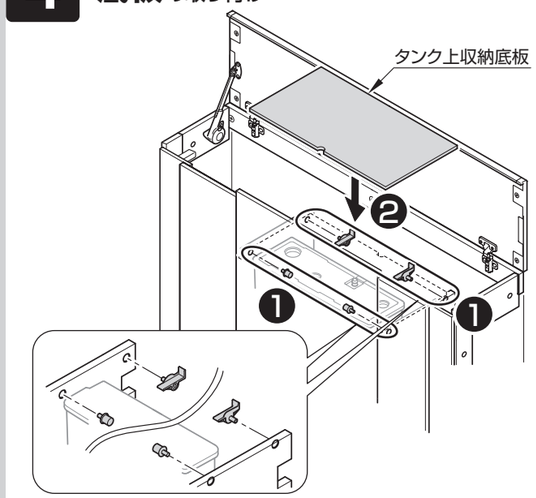


3 ダンパーの取り付け





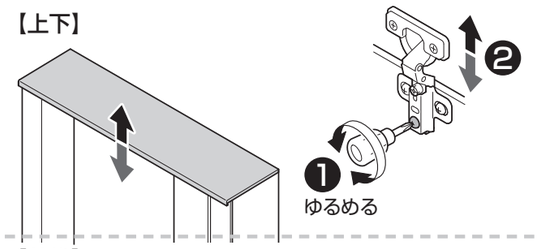
4 底板の取り付け



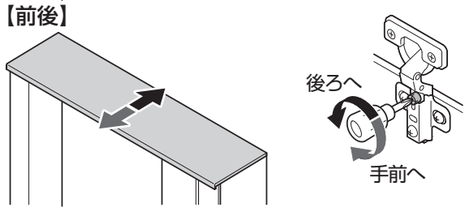
5 天板の調整

位置調整

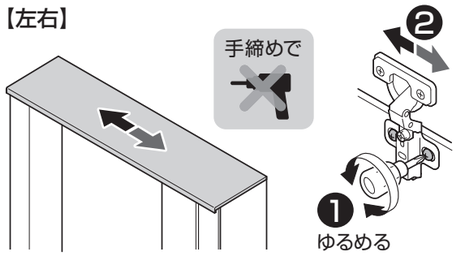
【上下】



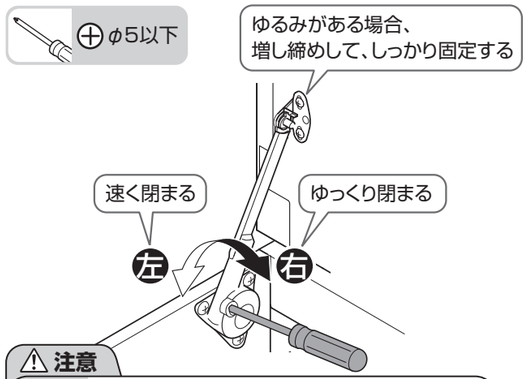
【前後】



【左右】



閉まり速度調整



⚠ 注意

禁止

調整時に弱めすぎない
天板が速く閉まり、けがの原因となります。

分解、改造をしない
器具が破損し、けがの原因となります。

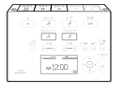
※速度調節部は、限度以上に回さないでください。
※温度によりダンパーの作用速度が変わることがありますが、故障ではありません。

【お引渡し前に】
天板の調整を必ず行ってください。

17.リモコン

❶ リモコンの取り付け
▶ウォシュレット施工説明書

❷ リモコンの作動確認
▶P.41 2「便器洗浄の確認」リモコン

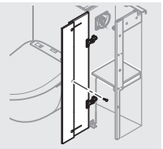


18.仕上げ

1 クッションの張り付け

▶P.51

2 扉の本固定



▶P.51

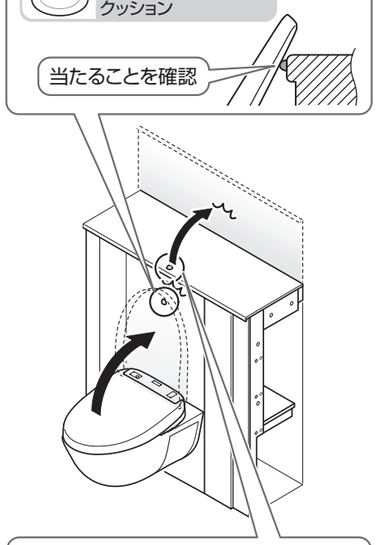
1 クッションの張り付け

ポイント

張付面は水拭きし、乾燥後張り付ける

【手洗器なしタイプ】前板
【手洗器ありタイプ】天板前面

「ウォシュレット」に同梱
クッション

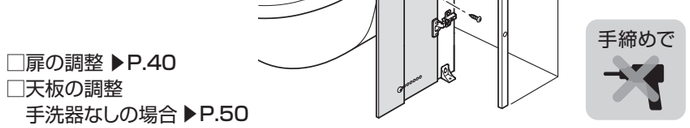


天板を開けた時、壁などと当たる場合は張り付ける

「施工説明書」に同梱
クッション

※お使いにならない場合は、取扱説明書と一緒にお客様に渡してください。

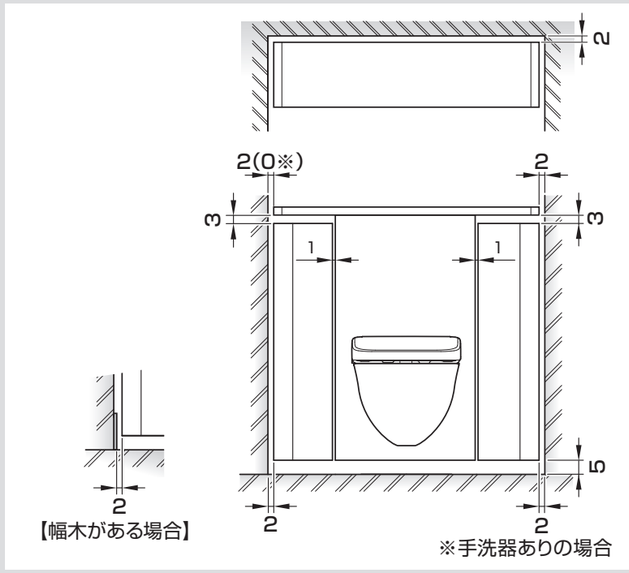
2 扉の本固定



トラスタッピンねじ
φ4×18または
φ4×20（1本）

□扉の調整 ▶P.40
□天板の調整
手洗器なしの場合 ▶P.50

仕上げ状態（目安）



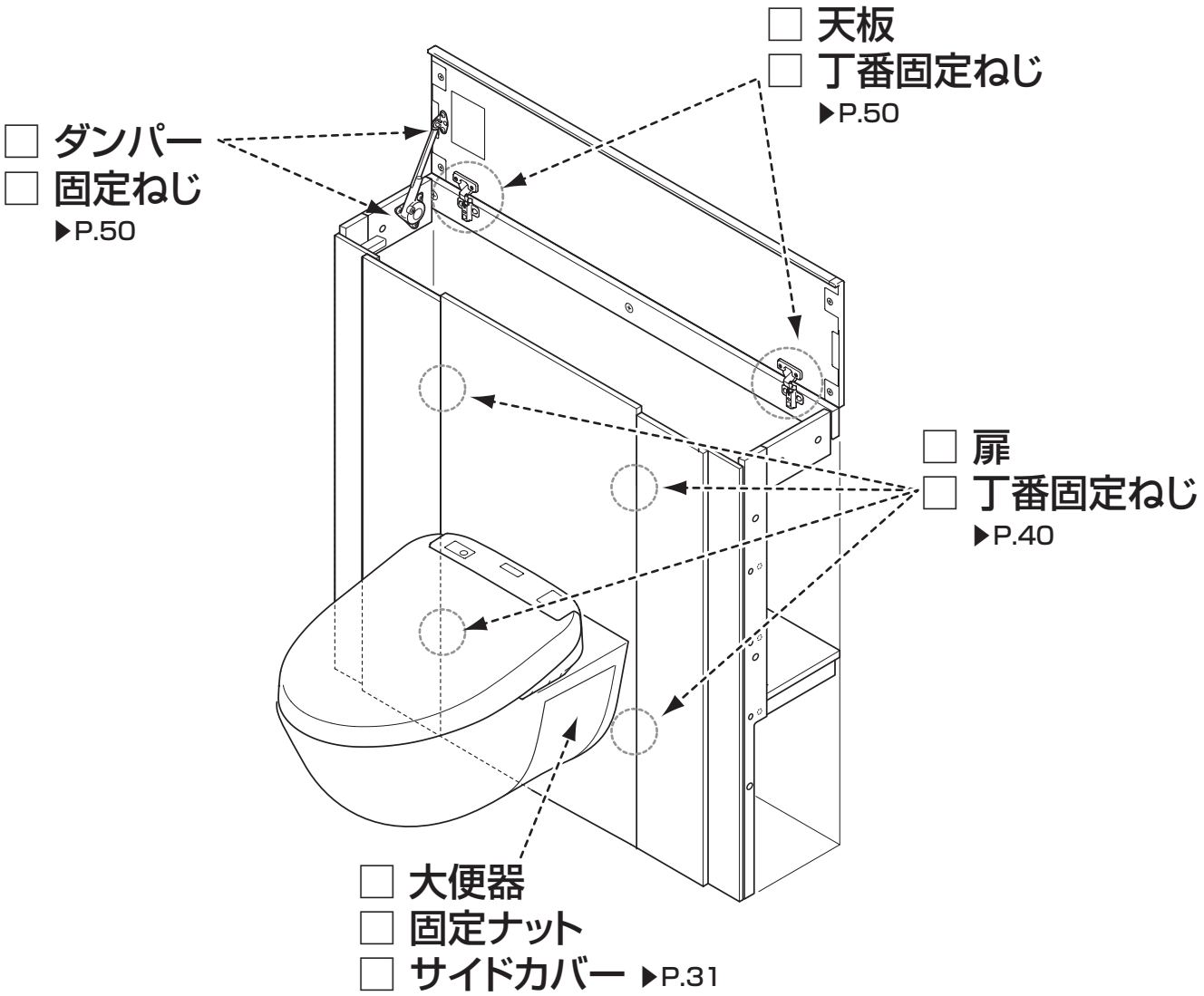
引渡し前の点検

お引渡し前に、必ず確認してください。

□ 大便器や配管類から水漏れなどありませんか? ▶P.42

□ フィルター付止水栓のフィルターを清掃しましたか? ▶P.45

□ 以下の箇所にゆるみ・ガタはありませんか?



工事店様へ

このたびはレストパルFを施工いただき、ありがとうございました。

UGX1112S